永遠の真理

ETERNAL TRUTH

2025年 7-8月

「神の民のための賜物」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

はじめに　「誘惑に抵抗し得る思考の習慣」　3

朝のマナ　「神の民のための賜物」　4
Gifts for God's People

力を得るための食事　「ピーマンの南蛮漬け」　68
レシピ

お話コーナー　「しるしをつけられた人（I）」　70
聖書物語

【正丸教会】
〒368-0071　埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465

【沖縄集会所】
〒905-2261　沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

アクセス　www.4angels.jp
メール　sdarm.shomaru@gmail.com

発行日　2025 年 6 月 8 日
編集＆発行　SDA 改革運動日本ミッション
〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Sakusabe on Front page; Sermon View on page 4

Printed in Japan

誘惑に抵抗し得る思考の習慣

神のみ言葉の真理の価値をさらに完全に悟り、大欺瞞者によって真理から心が奪われてゆく危険性をよく理解すべきである。…罪によって人間の全身が障害をきたし、頭脳が乱れ、想像力が腐敗する。罪が心の能力を低下させ、外部からの誘惑に反応するものが心の中にあるため、人間は知らず知らず、悪に向かうのである。

わたしたちのために払われた犠牲が完全であったように罪の汚れから回復することも完全であるべきである。…福音の倫理は傷なき神の品性以外には標準を認めない。キリストの生涯は、律法のすべてのいましめの完全な成就であった。…「あなたがたのうちに働きかけて、そのねがいを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである」(ピリピ 2:13)。…

わずかな、断片的な努力によっては誤りを正すことも、行いを改めることもできない。…自己に打ち勝ち、きよくなり、天国にはいるための戦いは一生の戦いであって、絶えざる努力と活動なしには、神聖な生活の進歩も、勝利者の冠を獲得することもできない。…

一瞬も警戒をゆるめてはならない。…かたく抵抗しなければ征服されてしまう。…

使徒パウロの生涯は自己との絶えざる戦いであった。彼は「わたしは日々死んでいる」と言い、日々、その意志と欲望は義務と神の意志と戦ったのである。そして彼は自分の性癖に従わないで、自分の性質をどんなに苦しめようと、神のみ旨を果したのであった(コリント第一 15:31)。…

精通していなければならないキリスト教の科学がある。…わたしたちは生来の性癖に調和しない方法で神に仕えなければなら…ないからである。悪に対する遺伝的あるいは後天的な性癖を征服しなければならない。…わたしたちの心は教育され、神に堅く立つようにされなければならない。誘惑に抵抗し得られるだけの思考の習慣を形成すべきであって、上を見ることを学ばなければならない。神のみ言葉の原則、すなわち、天のように高い、永遠に至る原則がわたしたちの日常生活にいかなる意義をもつかを悟るべきであって、すべての行動、言語、思想がこの原則に一致しなければならない。すべてのことがキリストと調和し、キリストに服従していなければならない。…

わたしたちは準備ができているだろうか。天の支配者、律法をお与えになる方である神と、神がご自分の代表としてこの世につかわされたイエス・キリストを、わたしたちはよく知っているだろうか。…

天の使は自分のこと、この世のことからわたしたちの心をそらせようとしている。彼らをむだに働かさないようにしよう。…

思想を神に集中させるべきである。生れつきの悪性癖に勝利するためには、熱心な努力を払わなければならない。…キリストが勝利されたように勝利しなければ、いのちの冠は獲得できない。(ミニストリー・オブ・ヒーリング 433-437)

神の民のための賜物

Gifts for God's People

7-8 月

7 月　奇跡

8 月　発達するための賜物である信仰

賜物一覧の第四番目

「神は教会の中で、人々を立てて、第一に使徒、第二に預言者、第三に教師とし、次に力あるわざ（奇跡のわざ）を行う者……をおかれた。」（コリント第一 12:28）

わたしたちはこの地上歴史の特別な時代に生きている。大いなる働きが非常に短い期間になされなければならないので、クリスチャンはみな、この働きを支えるために役目を果たすべきである。

神は魂の救いという働きに自分自身を捧げる人々を召しておられる。神に惜しみなく与えるとみなされたい者は、思いと心、すなわち自分の全存在をこのお方の奉仕に捧げなければならない。キリストが滅び行く世界のためになされた犠牲を、わたしたちが悟り始めるとき、魂を救うための力強い取り組みが見られる。ああ、わたしたちの教会がみなキリストの無限の犠牲を見、はっきりと理解することができると良いのに！

最近、夜の幻の中で、ある描写がわたしの前を通り過ぎた。神の民の間に大いなる改革の運動があるように見えた。多くの者が神を賛美し、病気の者は癒され、他の奇跡が行われた。ちょうどペンテコステの大いなる日の前に表されたのと同じような、とりなしの精神が見られた。幾百、幾千の人々が、家庭を訪問し、神の御言を彼らの前に開いているのが見えた。聖霊の力によって心が罪を悟り、本物の改心の精神が表された。真理の宣布に四方八方の戸が開け放たれた。世界は天来の感化力で明るくされたように見えた。神の真のへりくだった民は大いなる祝福を受けた。わたしは感謝と賛美の声を聞き、1844 年にわたしたちが証したのと同じような改革がそこにあるように見えた。（特別な証シリーズ B 8 巻 3, 4）

何もしないで何か超自然的なものによって強いられるのを待つ者は、昏睡状態と暗闇の中で待つことになる。神はご自分のみ言葉を与えてこられた。あなたの魂に間違えようのない言葉で語っておられる。このお方の口の言葉は、あなたの義務をあなたに示し、それを実行するようにと強く迫るのに十分ではないだろうか。（クリスチャン教育 117）

神がある働きの方法を指定なさるとき、わたしたちはその方法を無視すべきではない。それをわきに置いて、このお方が自分たちの怠慢を埋め合わせるために奇跡を働いてくださるようにと祈ったり、期待したりすべきではない。神は、一人びとりにその能力と才能に応じてご自分の働きを指定しておられる。（E.G. ホワイト 1888 年メッセージ 111）

7月2日

御霊のあらわれ

「各自が御霊の現れを賜わっているのは、全体の益になるためである。すなわち、ある人には御霊によって知恵の言葉が与えられ、……またほかの人には力あるわざ（奇跡を行うわざ）……が与えられている。」（コリント第一 12:7, 8, 10）

キリストが後になっておつかわしになった 70 人の弟子たちは、12 人の弟子と同様に、その使命の印として、超自然的な力を受けた。仕事が終ったとき、70 人は喜んで、「主よ、あなたの名によっていたしますと、悪霊までがわたしたちに服従します」と言って帰ってきた。するとイエスは、「わたしはサタンが電光のように天から落ちるのを見た」と仰せになった（ルカ 10:17, 18）。

そのときからキリストのしもべたちはサタンを征服された敵とみるべきであった。十字架上で、イエスは彼らのために勝利を得られることになっていた。主は、その勝利をしもべたちが自分のものとして受け入れるように、お望みになった。「わたしはあなたがたに、へびやさそりを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を授けた。だから、あなたがたに害をおよぼす者はまったく無いであろう」と、彼は仰せになった（ルカ 10:19）。

聖霊の全能の力は、すべての悔いた魂の防御である。キリストは、悔いて信仰によりキリストの保護を求める者が敵の支配を受けるようなことにはなさらない。サタンが強い者だということは事実だが、天から悪魔を追いおろされた強い救い主がわたしたちに与えられていることを感謝しよう。サタンは、わたしたちがサタンの力を誇張すると喜ぶのである。それよりもイエスのことをわたしたちは語る方がよい。イエスの力と愛を賛美する方がよい。（ﾐﾆｽﾄﾘｰ・ｵﾌﾞ・ﾋｰﾘﾝｸﾞ 64, 65）

自分が神のために何かをするよう特別に強いられるのを感じるまで何もしない者は、決して何もしない。神はみ言葉を与えておられるので、これで十分ではないだろうか。あなたはこのお方のみ声をそのみ言葉の中に聞くことができないのであろうか。もしあなたが神の指定された方法を用い、真理に従おうという断固とした目的をもって聖書を勤勉に研究するなら、それが神からの教理であるかどうかがわかる。しかし神は、ご自分の真理をあなたが見るよう強いるために奇跡を働かれることは決してない。神は……すべての人が救われるのを可能にしてくださった。キリストは堕落した世界のために死んでくださった。そして、キリストの功績を通して、神は、人が神の戒めを守るのか、それとも違反の道を歩むのかを選ぶために、二度目の試み、二度目の猶予期間、二度目のテストを与えることを決定された。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1897 年 9 月 28 日）

超自然的な方法による勝利

「あなたの神、主がパロと、すべてのエジプトびととにされたことを、よく覚えなさい。すなわち、あなたが目で見た大いなる試みと、しるしと、不思議と、強い手と、伸ばした腕とを覚えなさい。あなたの神、主はこれらをもって、あなたを導き出されたのである。またそのように、あなたの神、主はあなたが恐れているすべての民にされるであろう。あなたの神、主はまた、くまばちを彼らのうちに送って、なお残っている者と逃げ隠れている者を滅ぼしつくされるであろう。あなたは彼らを恐れてはならない。あなたの神、主である大いなる恐るべき神があなたのうちにおられるからである。」(申命記 7:18 ～ 21)

古代に、神はご自分の民の敵と戦うために、民の前に行かれたが、気高い、捧げられた者がエホバの十戒を収めている契約の箱をかついだ。そしてだれであっても、もし十誡にある十の戒めのどれか一つでも違反するなら、神はみ顔をご自分の民からそむけ、敵が恐ろしい虐殺を行なうことを許された。もし彼らが十の規則、すなわち自分たちの担っている契約の箱の中にその写しが収められているものを守るなら、神の御使がイスラエルの軍と共に戦い、軍隊の人数が非常に少なくても、このお方は敵を追い返し、すばらしい勝利を彼らにお与えになった。(原稿リリース7巻 111, 112)

世の贖い主は、ご自分に従う者に、彼らが戦うように召されている争闘の計画をお示しになり、事前に代償を考慮するようにと彼らにお命じになる。このお方は力に優れている天使がご自分の軍隊の中におり、ご自分を信頼する者は雄々しく戦うことができると彼らに保証なさる。彼ら自身の強さによってではなく、全能のお方の力によって一人が千人を追い、二人が万人を追う。彼らを愛してくださるお方によって、彼らは勝ち得てあまりがある者となる。このお方は彼らに敵対して隊列を組むおびただしい悪の同盟軍を彼らにお示しになるが、また彼らが天の万軍と一緒に戦っており、天の知的存在者全員よりも力強いお方が、真理と義のために戦う者の集団の中におられると宣言して、彼らを励まされる。……主の万軍の将は、自然と超自然の敵に対するあらゆる闘争の中で、前進するようお導きになる。イエスは「勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」と仰せになる (ヨハネ 16:33)。あなたの指導者は征服者であり、勝利に向かって進まれるのである。(ユース・インストラクター 1894 年 12 月 20 日)

7月4日

古代と同じ力

「〔生ける神は〕天においても、地においても、しるしと奇跡とをおこない、ダニエルを救って、ししの力をのがれさせたかたである。」（ダニエル 6:27）

ししの穴に入れられたダニエルは、国家の大臣たちの長として、また至高者の預言者として、王の前に立ったダニエルと同じであった。神を信頼している人は、最大の試練の時においても、神と人間からの光と恵みが降り注ぐ繁栄の時と同様なのである。信仰は目に見えないものに手を伸ばし、永遠の実在を把握するのである。（国と指導者下巻 154, 155）

イエスはそれほどの価を払ってあがなった者が、敵の誘惑にもてあそばれるのをお望みにならない。彼はわたしたちが負けて滅びるのをお好みにならない。ししの穴でライオンの口をふさぎ、忠実な証人と共に燃ゆる炎の中を歩まれたキリストは、それと同じように喜んで、わたしたちの性質のすべての思いを征服してくださるのである。今日、彼はあわれみの座に立って、その助けを求める人々の祈りを神にささげておられる。キリストは悔いて泣く者をひとりとして、退けるようなことをなさらない。ゆるしと回復を求めて主のもとに来るすべての者を、惜しみなくゆるしてくださる。（ﾐﾆｽﾄﾘｰ・ｵﾌﾞ・ﾋｰﾘﾝｸﾞ 60, 61）

神は、無限の犠牲を通して、人々がこの世で聖潔を実践することを可能にしてくださった。未来の命のために自分の選びを確かなものにしたい者は、神の戒めに服従する気持ちによって、それを確かにすることができる。未来の生活の魅力が語られるのを聞いたときに生じる強い感情や、強い衝動や、あるいは天への願望は、あなたがイエス・キリストと共にそのみ座に座るために選ばれている証拠なのではない。もしあなたが信心の奥義を知りたいなら、表されたことに従わなければならない。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1897 年 9 月 28 日）

人はキリストの力によって、罪深い習慣の鎖を断ち切る。彼らは利己心を捨てる。不敬な者は敬虔になり、飲酒家は謹厳になり、放蕩者は純潔になる。サタンに似ていた人々が神のかたちに変わってくる。この変化はそれ自体が奇跡中の奇跡である。みことばによって起こる変化、それはみことばの最も深い奥義の一つである。われわれはそれを理解することができない。ただ、……信じることができるだけである。（患難から栄光へ下巻 169, 170）

真の奇跡の源

「イスラエルの人たちよ、今わたしの語ることを聞きなさい。あなたがたがよく知っているとおり、ナザレ人イエスは、神が彼をとおして、あなたがたの中で行われた数々の力あるわざと奇跡としるしとにより、神からつかわされた者であることを、あなたがたに示されたかたであった。このイエスが渡されたのは神の定めた計画と予知とによるのであるが、あなたがたは彼を不法の人々の手で十字架につけて殺した。神はこのイエスを死の苦しみから解き放って、よみがえらせたのである。イエスが死に支配されているはずはなかったからである。」（使徒行伝 2:22 ～ 24）

カルバリーの十字架上におけるキリストの苦悩は、律法の不変性を示すために、提示しうるどのような議論よりも物を言う。しかし、イエスは律法の刑罰を負い、すべての人間のために死を味わわれた。しかし墓はこのお方を拘束しておくことはできなかった。十字架上の処刑の三日後、天の力強いみ使いが彼らの道から暗闇を追いやり、墓から石を転がした。支配者の封印は破られ、弟子たちが来てイエスの体を盗み去ることができないように、すべての妨害から墓を守るために配置されていたローマの番人たちは死人のように地面に倒れた。その顔は照り輝き、その衣は雪のように白い主のみ使いが現れたので、番人たちは彼を恐れて死人のようになった。キリストは死と墓に打ち勝った力強い勝利者として墓から出てこられ、わたしたちの弱さを思いやってくださる、あわれみ深く忠実な大祭司として、わたしたちのためのとりなしをするために、彼は高いところへ上られた。

わたしたちが試練に遭わずに天国に入ることはない。イエスは、わたしたちが狭い門から入るために努力し苦悩しなければならないと仰せになっておられる。わたしたちはもろもろの支配と権威、高いところにいる霊的邪悪に対し、この世の闇の主権者に対して絶えず戦いを行うべきである。しかしイエスは闘争の計画を知っておられ、ご自分がわたしたちの右におられ、わたしたちは動かされることはないとの保証をもってわたしたちを元気づけてくださる。このお方は「見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」と仰せになる。神のみ使いはみなわたしたちと共にいる。「御使たちはすべて仕える霊であって、救を受け継ぐべき人々に奉仕するため、つかわされたものではないか」（ヘブル 1:14）。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1892 年 7 月 19 日）

7月6日

バプテスマのヨハネについてはどうか

「ヨハネはなんのしるしも行わなかったが、ヨハネがこのかたについて言ったことは、皆ほんとうであった。」（ヨハネ 10:41）

エリヤのように、天から火を呼びおろしたり、死人をよみがえらせたり、モーセのように、神のみ名によって権力の杖を使うことは、ヨハネにゆるされなかった。彼は、救い主の来臨をさきぶれし、その現われに対して備えるように民に呼びかけるためにつかわされた。彼は、その使命を忠実に果したので、彼がイエスについて教えたことを人々が思い出したときに、彼らは、「ヨハネがこのかたについて言ったことは、皆ほんとうであった」と言うことができた（ヨハネ 10:41）。主の弟子たちはみな、キリストについて、このようなあかしをたてるために召されているのである。（各時代の希望上巻 274）

神はふつうご自分の真理を前進させるために奇跡を行うことはなさらない。もし農夫が種をまいた後で土を耕すのを怠るなら、怠惰の確かな結果を和らげるために奇跡を行うことはなさらない。彼は収穫期に畑が不毛であるのを見出すであろう。神はご自分が人類家族に示しておられる偉大な原則に従ってお働きになるので、賢い計画を練り、神が確かな結果を生じさせる方法を実施するのはわたしたちの分である。断固とした努力をせず、聖霊が行動を起こすようにと自分に強いるのをただ待つ者は、暗闇の中で滅びる。わたしたちは奇跡を待っている人々に尋ねたい。神があなたの手の届くところに置いてこられた、どのような方法を試してきたであろうか。何か超自然的な働きがなされるのを期待し、単に「信じよ、信じよ」と言う人々にわたしたちは尋ねたい。あなたがたは神が啓示されたご命令に服従しているであろうか。主は「しなければならない」また「してはならない」と言われた。すべての者がタラントのたとえ話を研究し、神は一人びとりに、すなわちこのお方がそのタラントを委ねておられる一人びとりに、自分の能力を働かせることによって有用性を増すことができるようにと、自分の働きを与えてくださっていることに気づかせよう。あなたは静かに座って、神のみ働きに何もしないでいるべきではない。神のみ言葉の中でとがめられている悪習慣に打ち勝ち、そのなかで命じられている良いことを行うことで、主人であるお方のために果たすべき働き、熱心な働きがある。あなたがたは個人的に悪と戦わなければならず、すべての有害な交際から身を振りほどき、神のみ言葉を研究し、世と肉と悪魔に対する戦いに神の助けを求めて祈らなければならない。あなたは信仰の良き戦いを戦うために、日々神からの光が必要である。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1897 年 9 月 28 日）

五つのパンと二匹の魚

「イエスはパンを取り、感謝してから、すわっている人々に分け与え、また、さかなをも同様にして、彼らの望むだけ分け与えられた。人々がじゅうぶんに食べたのち、イエスは弟子たちに言われた、「少しでもむだにならないように、パンくずのあまりを集めなさい」。そこで彼らが集めると、五つの大麦のパンを食べて残ったパンくずは、十二のかごにいっぱいになった。」（ヨハネ 6:11 ～ 13）

神の御摂理によって、イエスはそのような立場に置かれたのであるから、彼は必要を満たすものを与えられるように天父にお頼りになった。わたしたちは困難な立場に立たされたときに、神に頼らねばならない。あらゆる危機に当って、わたしたちは無限の資源を支配される神に助けを求めるべきである。……

彼らに「食物をやりなさい」との救い主のご命令を聞いたとき、弟子たちの心の中には、あらゆる困難が考えられた。「わたしたちは村々に行って、食物を買いましょうか」と弟子たちはたずねたが、キリストは何と仰せになっただろうか。それは「食物をやりなさい」であった。弟子たちはあるだけのものをイエスの所に持ってきたが、キリストは、それを食べなさいとは仰せにならなかった。人々に供するように弟子たちにお命じになったのである。食物はキリストのみ手の中で増し加わり、キリストに差し出された弟子たちの手は必ず満たされた。わずかな食物がすべての人に十分に足りたのである。群衆に食を与えて後、神の備えてくださったとうとい食物を弟子たちはイエスと共にいただいた。

我々は貧しい人や無知な苦しむ人々を見ては幾度落胆するだろう。そうして自分たちの弱い力と乏しい資源がこのひどい欠乏を満たすのに何になろうと思うのである。もっと才能のある人が働きを指導するのを待とうか。あるいはまたある組織によってこの働きがなされるのを待とうか。しかしキリストは彼らに「食物をやりなさい」と仰せになる。物資、時間、才能を使用なさい。あなたの大麦のパンをイエスの所に持って行きなさい。

あなたの資源は幾千人の人を養うに足りなくても、ひとりを養うに足りるかも知れない。そしてキリストのみ手の中で、それは多くの人々を養うかも分らないのである。弟子たちのように自分にあるものをささげなさい。キリストは、その贈り物を増し加えてくださる。率直に、単純に信頼するとき、彼はこれにむくいられるのである。そうして乏しく見えた食物も豊かなご馳走となる。（ﾐﾆｽﾄﾘｰ・ｵﾌﾞ・ﾋｰﾘﾝｸﾞ 27, 28）

7月8日

永遠のパンを求める

「群衆は、イエスも弟子たちもそこにいないと知って、それらの小舟に乗り、イエスをたずねてカペナウムに行った。そして、海の向こう岸でイエスに出会ったので言った、「先生、いつ、ここにおいでになったのですか」。イエスは答えて言われた、「よくよくあなたがたに言っておく。あなたがたがわたしを尋ねてきているのは、しるしを見たためではなく、パンを食べて満腹したからである。朽ちる食物のためではなく、永遠の命に至る朽ちない食物のために働くがよい。これは人の子があなたがたに与えるものである。」（ヨハネ 6:24 ～ 27）

働くことができる人々に助けを与えて怠けさせることは罪である。ある人々は神に栄光を帰すためではなくて、「パンと魚」を得るために、あらゆる集会に熱心に出席した。このような人々は家にいて自分の手で働いて、家族の必要を満たすために「良い物」を得て、現代の真理を伝える尊い働きを支えるささげ物をすることができるようにしたほうがはるかに良い。今こそ、天に宝を蓄え、われわれの心を整えて、悩みの時のための準備をすべきである。手が清く、心のいさぎよい者だけが、その苦しい時に立つことができる。今こそ、神の律法がわれわれの思いと額にかくされ、心の中に書き記されなければならない時である。

主は、心が世の思い煩いに満たされることの危険をわたしに示された。わたしはある人々が他の刺激的な本を読んで、現代の真理と聖書を愛する心から引き離されていくのを見た。また、他の人々は、飲食や衣服のことで心が悩みと苦労に満たされていた。ある人々は、主が来られるのははるか遠い先のことだと思っている。時は、彼らが期待したよりは数年長く続いた。そのために彼らは、時がさらに数年続くものと考える。このようにして、彼らの心は、現代の真理から引き離されて世に従っていく。わたしはこうしたことのなかに大きな危険を見た。もしわれわれの心が他のことで満ちているならば、現代の真理は心からしめ出されて、額には生ける神の印を押す場所がない。イエスが至聖所におられる時は、ほとんど終了し、時は、あとわずかしか続き得ないことをわたしは見た。われわれの空いた時は、聖書の研究のために費やさなければならない。この聖書が、最後の日にわれわれを審くのである。（初代文集 129, 130）

7月9日

多くはわたしたちの心次第である

「〔イエスは〕多くのしるしを彼らの前でなさったが、彼らはイエスを信じなかった。それは、預言者イザヤの次の言葉が成就するためである、『主よ、わたしたちの説くところを、だれが信じたでしょうか。また、主のみ腕はだれに示されたでしょうか』。こういうわけで、彼らは信じることができなかった。イザヤはまた、こうも言った、『神は彼らの目をくらまし、心をかたくなになさった。それは、彼らが目で見ず、心で悟らず、悔い改めていやされることがないためである』。」（ヨハネ 12:37 ～ 40）

人の作った理論は人から人へと伝えられ、人の教理は、悪いパン種のように、かたまり全体が発酵するまで活発に働く。主がメッセージをお送りになるとき、主は心の正直な者がその真理について確信するのに十分な証拠をお与えになる。しかし真理に抵抗したい者は、さらに大きな証拠を要求する。主が彼らにもっと偉大な証拠をお与えになっても、彼らの反対をもっと断固としたものにするだけである。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1892 年 10 月 18 日）

ユダヤ人に救い主の働きをこばませたものが、キリストの神としてのご品性についての最高の証拠であった。キリストの奇跡の最大の意義は、それが人類を祝福するためであったということにみられる。（各時代の希望中巻 170）

わたしたちは、イエスの神性を証明するこのお方の奇跡を目撃してはいないが、それらを目撃した弟子たちの記述があり、信仰によって彼らの目を通して見、彼らの耳を通して聴く。そしてわたしたちの信仰は彼らの信仰と共に与えられた証拠をつかむ。

使徒たちは幾世紀にも及んでいる預言者と義人たちの証によってイエスを受け入れた。クリスチャン世界には旧約聖書と新約聖書両方を貫いて流れている証拠の満ち満ちた完全な鎖がある。一方は来るべき救い主を指し示しており、他方はその預言の条件を満たしている。これはすべて信じようとする人々の信仰を確立するのに十分である。神のご計画は、ご自分と御子の力を信じ、また聖霊の働きを信じる信仰を発達させるために、人類に公平な機会をゆだねることであった。（預言の霊 3 巻 182）

7月10日

手に入る奇跡的な力

「多くのしるしと奇跡とが、次々に使徒たちの手により人々の中で行われた。」（使徒行伝 5:12）

なぜ、わたしたちはキリストの恵みと力にもっと信頼して頼らないのであろうか。なぜ、心を尽くして信じないのであろうか。わたしたちには「わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた」と、わたしたちに保証しておられる友なるお方が天の法廷におられるのである（マタイ 28:18）。

クリスチャン教会は聖霊を求めて祈ることによってその存在が始まった。……

キリストはご自分の教会が、変えられた体となるための備えをなされた。天の光で照らし、インマヌエルの栄光をもつものとされたのである。クリスチャン一人びとりが、光と平和の霊的雰囲気に囲まれていることがこのお方の目的である。自己を捨て去り、心に聖霊が働くための場所をつくり、神にまったく捧げた人生をおくる者の有用さには限りがない。……

信者の唯一の大望はキリストのご品性に似たものをあらわし、その王国を拡大するために労することでなければならない。

聖霊が注がれたのは、弟子たちがもはや最高位を求めようとせず完全な一致を果たした後であったことに注目しなさい。……

学識、タラント、雄弁、あらゆる生来あるいは修得した才能を持つことができるかもしれない。しかし、神の御霊のご臨在がなければ、心に触れることはなく、罪人をキリストに勝ち取ることもない。もし彼らがキリストにつながっており、御霊の賜物が彼らのものであれば、弟子の中で最も貧しく、最も無学な者であっても心に語りかける力を持つ。神は、彼らを宇宙における最高の感化力を流し出す水路となさる。兄弟姉妹がた、聖霊を求めて嘆願しなさい。神がなされた一つ一つの約束の背後には、このお方が立っておられる。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1908年 4 月 30 日）

モーセがしたように自分を完全に神に捧げる者は、イスラエルの偉大な指導者とまったく同じように、神のみ手によって導かれる。彼は身分が低く、見たところ賜物がないように見えるかもしれないが、愛情に満ちた信頼する心で、神のみ旨のあらゆる通告に従うなら、彼の力は清められ、気高くされ、元気づけられ、彼の能力は増し加えられる。（同上 1911 年 4 月 31 日）

初期の教会

「〔初期のキリスト教信者は〕ひたすら、使徒たちの教を守り、信徒の交わりをなし、共にパンをさき、祈をしていた。みんなの者におそれの念が生じ、多くの奇跡としるしとが、使徒たちによって、次々に行われた。」(使徒行伝 2:42, 43)

聖霊はとくに使徒たちにとどまった。彼らはイエスの十字架上の処刑、そのよみがえり、その昇天、すなわちイスラエルの希望となるべき重要な真理の証人であった。すべての者が自分たちの唯一の希望として世の救い主を見るべきであり、イエスがご自身の命を犠牲にすることによって開かれた道に歩み、神の律法を守って、生きるべきであった。わたしは、ユダヤ人がイエスを憎み、殺す原因となったのと同じ働きを進めるために、弟子たちに力を与えられたイエスの知恵といつくしみ深さを見た。(霊の賜物 1 巻 86, 87)

聖霊の賜物を通して、弟子たちは驚くべき力を受けるのであった。彼らのあかしはしるしとふしぎなわざによって確認されるのであった。使徒たちばかりでなく、そのメッセージを受け入れた者たちによって、奇跡が行なわれるのであった。(各時代の希望下巻 367)

「信じる者には、このようなしるしが伴う。すなわち、彼らはわたしの名で悪霊を追い出し、新しい言葉を語り、へびをつかむであろう〔パウロの場合のように〕。また、毒を飲んでも、決して害を受けない。病人に手をおけば、いやされる」とイエスは言われた (マルコ 16:17, 18)

当時、毒を盛ることは、かなり広範囲に行われていた。無節操な者は自分の野望のさまたげになる人々をこの方法で殺害するのをためらわなかった。イエスは、もしそれから特別に守らなければ、使徒たちがこの危険にさらされることをご存知であった。このお方は、多くの人々があまりにも惑わされて、いかなる手段を用いてもこれらの証人たちを死に至らせることによって神の奉仕を行っていると考えるようになることをご存じであった。それゆえこの狡猾な悪から彼らをお守りになったのである。このように主はご自分の僕らに、彼らは自分自身の力ではなく、聖霊の力で労するのだと保証なさった。弟子たちは全国民に福音を述べ伝えるという任務を受けていたが、自分たちの前に置かれた働き―後継者に引き継がれ、時の終りまで続けるべき働き―の広大な範囲とすばらしい性質を、そのとき理解していなかった。(預言の霊 3 巻 248)

7月12日

二種類の奇跡

「〔ペテロとヨハネ〕にいやされた者がそのそばに立っているのを見ては、〔ユダヤの指導者は〕まったく返す言葉がなかった。そこで、ふたりに議会から退場するように命じてから、互に協議をつづけて言った、『あの人たちを、どうしたらよかろうか。彼らによって著しいしるしが行われたことは、エルサレムの住民全体に知れわたっているので、否定しようもない。ただ、これ以上このことが民衆の間にひろまらないように、今後はこの名によって、いっさいだれにも語ってはいけないと、おどしてやろうではないか』。そこで、ふたりを呼び入れて、イエスの名によって語ることも説くことも、いっさい相成らぬと言いわたした。ペテロとヨハネとは、これに対して言った、『神に聞き従うよりも、あなたがたに聞き従う方が、神の前に正しいかどうか、判断してもらいたい。わたしたちとしては、自分の見たこと聞いたことを、語らないわけにはいかない』。」（使徒行伝 4:14 ～ 20）

ユダヤ人たちは、彼らがイエスによってなされたのを見たのと同じような奇跡を、弟子たちが行うことができたので、驚いた。イエスが死なれたとき、そのような驚くべき現われはすべて終わるであろうと、彼らは思っていた。しかし、ここに 40 年間手足が不自由であったこの男が、痛みから解放され、手足を存分に使って喜んでいた。

次の日、アンナスとカヤパが残りの議員と共にやってきて、ペテロとヨハネは彼らの前に連れてこられた。まさにその部屋で、その人々の前で、ペテロは恥ずべきほどに自分の主を否定したのだった。彼はいま自分の裁判のために引き出されたとき、その光景が思いにはっきりとよみがえった。議員は彼の主人が彼らの前にいたときのペテロの臆病さを覚えており、投獄や死で脅かせばおびえさせることができるとうぬぼれた。しかしキリストが最も必要としておられたときにこのお方を否定した衝動的で自信家であったペテロは、そのとき尋問のためにサンヒドリンの前に来たペテロとはまったく別人であった。彼はもはやうぬぼれた自慢家ではなく、改心しており、自己に信頼しなくなっていた。彼は聖霊に満たされており、〔その〕力によって岩のように堅固になり、一度は関係がないと言ったそのみ名を、慎み深い勇気をもって、いつでもほめたたえる用意があった。（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ｻﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1885 年 1 月 22 日）

7月13日

祈りへの力強い応答

「〔弟子たちの信者仲間は〕口をそろえて、神にむかい声をあげて言った。主よ、……彼らの脅迫に目をとめ、僕たちに、思い切って大胆に御言葉を語らせて下さい。そしてみ手を伸ばしていやしをなし、聖なる僕イエスの名によって、しるしと奇跡とを行わせて下さい」。彼らが祈り終えると、その集まっていた場所が揺れ動き、一同は聖霊に満たされて、大胆に神の言を語り出した。信じた者の群れは、心を一つにし思いを一つにして、だれひとりその持ち物を自分のものだと主張する者がなく、いっさいの物を共有にしていた。使徒たちは主イエスの復活について、非常に力強くあかしをした。そして大きなめぐみが、彼ら一同に注がれた。」（使徒行伝 4:24, 29 ～ 33）

弟子たちがエルサレムで福音の真理を宣べ伝えたとき、神は彼らのことばに有利な証拠を与えられ、民衆はそれを信じた。……福音を受け入れた人々はみな、「心を一つにし思いを一つにし」た（使徒行伝 4:32）。彼らの心はただ一つの共通な関心事に支配されていた。それは彼らに委託された伝道事業を成功させることであった。彼らの生活に、貪欲がはいり込む余地はなかった。兄弟たちへの愛や自分たちが引き受けた働きに対する愛は、金銭や所有物に対する愛よりも強かった。彼らは地上の富よりも人の魂を高く評価していることを、実際の働きで証拠だてた。

神のみ霊が生活を支配するときには、常にこのようなことが起こるのである。心がキリストの愛で満たされている人々は、ご自身の貧しさによってわれわれが富むものとなるように、われわれのために貧しくなられたキリストの模範に従う。金銭、時間、感化力など、神のみ手からさずけられた賜物すべてを、彼らはただ福音のわざを進展させる手段として重んじるのである。初代教会ではそうであった。そして、今日も、教会の中で、教会員たちが聖霊の力に導かれて、世俗的なことがらへの愛着を捨て、自分たちの同胞に福音を伝えるために、よろこんで犠牲をはらうことが見られるならば、宣べ伝えられる真理は、聞くものの心を力強く動かすであろう。（患難から栄光へ上巻 70, 71）

7月14日

執事ステパノ

「ステパノは恵みと力とに満ちて、民衆の中で、めざましい奇跡としるしとを行っていた。」（使徒行伝 6:8）

聖霊は、使徒たちが貧しい者たちへの配分の仕事やそれに類似した重荷から解放され、キリストを自由に述べ伝えることができる方法を提案された。「そこで、十二使徒は弟子全体を呼び集めて言った、「わたしたちが神の言をさしおいて、食卓のことに携わるのはおもしろくない。そこで、兄弟たちよ、あなたがたの中から、御霊と知恵とに満ちた、評判のよい人たち七人を捜し出してほしい。その人たちにこの仕事をまかせ、わたしたちは、もっぱら祈と御言のご用に当ることにしよう。」

そこで、教会は信仰と神の御霊の知恵にみちた七人を、み事業にふさわしい実務に専心するために選んだ。ステパノは最初に選ばれた者であり、生まれも宗教もユダヤ人であったが、ギリシャ語を話し、ギリシャ人の習慣と風習に精通していた。それゆえ彼は長として、寡婦、孤児、価値のある貧しい者のために供された財源の支出を管理するのに最も適切な人物であるとみなされた。……

選ばれた七人は、祈りと按手によって厳粛に、もっぱら彼らの義務にあたるように定められた。このように任じられた者は、それによって信仰について教える義務からまぬかれるわけではなかった。反対に、「ステパノは恵みと力とに満ちて、民衆の中で、めざましい奇跡としるしとを行っていた」と記されている（同上 6:8）。彼らは真理を教える資格が十分にあった。彼らはまた冷静な判断力と思慮分別があり、試練、またはつぶやきや嫉妬という難しい事情に対処する適性をよくそなえていた。

使徒たちがもっぱら真理を教える特別な働きにあたることができるように、教会の実務を行う人々を任命することは、神に大いに祝福された。（預言の霊 3 巻 292, 293）

救い主がステパノを用いてサウロに語っておられた。ステパノのはっきりした論証は反駁の余地のないものであった。このユダヤ人の学者は、キリストの栄光の光を反映している殉教者の顔を見た。それはちょうど「天使の顔のように」見えたのである（使徒行伝 6:15）。（患難から栄光へ上巻 121）

サマリヤでのピリポ

「ピリポはサマリヤの町に下って行き、人々にキリストを宣べはじめた。群衆はピリポの話を聞き、その行っていたしるしを見て、こぞって彼の語ることに耳を傾けた。」(使徒行伝 8:5, 6)

彼らは迫害のために散らされた時、宣教の熱意に燃えて出て行った。彼らは自分たちに負わされた使命の責任を感じた。また、飢えている世の人々に与えるいのちのパンをもっていることを自覚していたので、キリストの愛に迫られて、このパンを求めているすべての者に分け与えた。主は彼らを通して働かれた。彼らが行く先々で、病人はいやされ、貧しい者に福音が宣べ伝えられた。

七人の執事のひとりピリポも、エルサレムから追われた者の中にはいっていた。(患難から栄光へ上巻 110)

神がピリポに彼の働きを指し示されたとき、この弟子は「主はそのおつもりで言われたのではない」と言わないで、「彼は立って出かけた」(使徒行伝 8:27)。彼は神のご意志への従順という教訓を学んでいた。彼はどの魂も神の御目には尊いこと、また御使たちが光を求めている人々を導いて、彼らを助けることのできる者と接触させるために遣わされていることを悟った。

そのときのように今日も、天使は人々を彼らの同胞へ導くために待っている。ある天使が、真理を受け入れる準備の整っているエチオピヤ人を見出す場所をピリポに示した。そして今日、天使たちは、聖霊に自分の舌を聖化していただき、自分の心を精錬し、気高くしていただく働き人たちの足を導き、教える。ピリポに送られた天使は、自分でエチオピヤ人のために働くこともできたが、これは神の働かれる方法ではない。人々が自分の同胞のために働くことが神のご計画である。

ピリポとエチオピヤ人の経験の中に、主がご自分の民をお召しになる働きが示されている。そのエチオピヤ人は、ピリポのような伝道者―神の御声を聞き、このお方が自分を遣わすところへ出かけていく伝道者―を必要としている大多数の種類をあらわしている。聖書を読んではいるが、その意味を理解できない人々が多くいる。世界中で男女が切望しながら天を見つめている。祈りと涙と質問が、光と恵みと聖霊を切望している魂から上っていく。多くの者が集められるばかりになって、王国の入口にいる。(ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1911 年 3 月 2 日)

7月16日

パウロの生涯における奇跡

「〔使徒と長老の〕全会衆は黙ってしまった。それから、バルナバとパウロとが、彼らをとおして異邦人の間に神が行われた数々のしるしと奇跡のことを、説明するのを聞いた。」（使徒行伝 15:12）

パウロは自分のパリサイ主義の厳格さを誇っていたが、ダマスコへの道中で示されたキリストの啓示後、救い主の使命と異邦人の改心における彼自身の働きが、彼の思いにはっきりした。そして生ける信仰と死んだ形式主義の違いを十分に悟った。パウロはなお自分がアブラハムの子らの一人であると主張し、キリスト教に改宗する前もつねにそうであったように忠実に文字通り、また霊的に十戒を守った。しかし彼は、型である儀式は、その影となっていたものが実現したために、まもなく完全に止むべきものであること、また福音の光がその栄光をユダヤ人の宗教に降り注ぎ、その古代の儀式に新しい意義を与えるようになったことを知っていた。（パウロの生涯からのスケッチ 65）

祭司長たちや役人たちは、パウロの経験の物語りの効果が著しいのを見て、彼に対して憎しみを抱いた。彼らは、パウロが大胆にイエスを宣べ伝え、イエスの名によって奇跡を行い、群衆が彼に聞き従って、彼らの言い伝えから離れ、ユダヤ人の指導者たちを神のみ子の殺害者と見なすようになったのを見た。彼らは怒りを燃やして、会議を開き、騒ぎを静める最善の方法について協議した。そこで、彼らは、パウロを殺すことが唯一の安全な方法であるということに、意見が一致した。しかし、神は、彼らの考えを知っておられて、天使たちを送って彼を守り、彼が生きて、その任務を果たすことができるようにされた。（初代文集 338, 339）

パウロの海上の旅行を通して、神の特別な目的が果たされた。……すなわち、パウロを通して船員たちが神の力を目に見、異教徒たちがイエスのみ名を耳にきき、多くの人々がパウロの教えとパウロのおこなった奇跡を通して改心するように、神は計画されたのであった。王や総督たちは、パウロの議論にひきつけられ、彼が熱心に聖霊の力をもってイエスのことを説き、自分の経験した興味深いできごとを語るのを聞いて、イエスが神のみ子であるという確信にとらえられた。（初代文集 346）

7月17日

すべての栄光はただ神だけに

「神は、パウロの手によって、異常な力あるわざを次々になされた。たとえば、人々が、彼の身につけている手ぬぐいや前掛けを取って病人にあてると、その病気が除かれ、悪霊が出て行くのであった。」（使徒行伝 19:11, 12）

パウロがエペソの偶像礼拝者と直接、接触するように導かれたとき、神の力が彼を通して著しく表された。使徒たちはつねに思いのままに奇跡を行うことができるわけではなかった。主はご自分のみ事業の進展あるいはみ名の名誉にかかわるときに、僕にこの特別な力をお与えになった。パロの宮廷におけるモーセとアロンのように、使徒たちは魔術師の偽りの不思議に対抗して、いま真理を擁護しなければならなかった。したがって彼が行った奇跡は、彼がこれまで行ったものとは性格の異なったものであった。キリストの衣のすそが、信仰の一触によって救済を求めた女に癒しの力を伝えたように、この場合にも、衣がすべて信じる人々にとって癒しの方法となった。「病気が除かれ、悪霊が出て行くのであった」（使徒行伝 19:12）。しかしこれらの奇跡は盲目的な迷信を促進するためではなかった。イエスが苦しんでいる女の一触を感じたとき、このお方は「力が**わたし**から出て行ったのを感じたのだ」とはっきり言われた。そのように、聖書は、主がパウロの手によって奇跡を行われたので、パウロの名ではなく、主イエスのみ名がほめたたえられたと宣言する。

使徒の働きに伴った超自然的な力のあらわれは、魔術に身を任せて、見えない存在との通信を自慢している人々に、深い印象を与えるよう意図されていた。パウロの奇跡はかつてエペソで目撃されたどんなものよりもはるかに影響力があり、奇術師の技術あるいは魔術師の魔法で真似することのできない性質のものであった。このようにして主は、偶像礼拝者自身の評価においてすら、最も人気のある力強い魔術にまさって、ご自分の僕を測り知れないほどの高さにたかめられた。（パウロの生涯からのスケッチ 135, 136）

奇跡は神の力を通して弟子たちによって日々行われた。そして証拠に対して思いが開かれている者はみな、これらの事柄の納得させる力に心を動かされた。（同上 53）

7月18日

なぜ奇跡がないか

「ああ、君よ、主がわたしたちと共におられるならば、どうしてこれらの事がわたしたちに臨んだのでしょう。わたしたちの先祖が……わたしたちに告げたそのすべての不思議なみわざはどこにありますか。」（士師記 6:13）

わたしたちは大きくされた信仰が必要である。主はご自分を信じるすべての者の心にご自分の意志が果たされるのを望んでおられる。しかし、神との共労者になることのできる者が、決してそうならないのは、彼らが自分の品性の不完全に執着するからである。ある者は大事にしている過ちに執着する。さらに他の者は、先天的また後天的欠点を楽しみ、また自分を築き上げ、自分に栄光を帰すことを自分の一生の働きとし、ついには、自分が聖霊にではなく、自己に満たされているのを見出されるに至るのである。

主の大いなる日はすぐにもわたしたちに臨むので、神は聖霊を働かせようとする者ではなく、聖霊によって働いていただく使者を召しておられる。そのような使者は御霊に導かれ、義のうちに形成され、精錬され、麗しくされる。なぜなら、喜んで御霊に働いていただくからである。しかし、膨大な量の利己心、あら捜し、疑い、不信、争いを持ち続けることに満足している者は、あまりにも欺かれて、自分の足りない尺度に気づかない。彼らは自分自身でする行為で満たされており、キリストと共に十字架につけられることが、何を意味するのか見当もつかない。自己をへりくだらせることは彼らにとって異なる経験である。彼らは神に受け入れられる奉仕をすることができる前に、自己が死ななければならない。（サザン・レビュー 1899 年 12 月 5 日）

不信心者は「神の民であると主張する人々の中でなぜ奇跡が行われないのか」と尋ねる。兄弟がたよ、なしうる最大の奇跡とは、人の心の改心である。わたしたちは、自己や人間の考えを忘れつつ、キリストを見つめて再改心する必要があるが、それはわたしたちがこのお方に似た者に変えて頂くことができるためである。すべての奇跡の中でこの最高の奇跡がわたしたちの心の内に行われるとき、わたしたちは他の奇跡が行われるのを見るようになる。

神は、わたしたちが改心していないかぎり、わたしたちを通して奇跡的に働くことはおできにならない。そうすることはわたしたちを増長させる。なぜならわたしたちは、それを自分がこのお方の目に完全である証拠とするからである。……「わたしにつながっていなさい。そうすれば、わたしはあなたがたとつながっていよう。枝がぶどうの木につながっていなければ、自分だけでは実を結ぶことができないように、あなたがたもわたしにつながっていなければ実を結ぶことができない」（ヨハネ 15:4）。生ける信仰によってキリストを見る人々、このお方につながっている人々は、このお方の栄光のために奇跡を行う力を持つ。（原稿リリース 4 巻 113）

七十人*を覚える

「七十二人〔の弟子たち〕が喜んで帰ってきて言った、『主よ、あなたの名によっていたしますと、悪霊までがわたしたちに服従します』。彼らに言われた、『わたしはサタンが電光のように天から落ちるのを見た。わたしはあなたがたに、へびやさそりを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を授けた。だから、あなたがたに害をおよぼす者はまったく無いであろう。しかし、霊があなたがたに服従することを喜ぶな。むしろ、あなたがたの名が天にしるされていることを喜びなさい』。」(ルカ10:17～20) * 欽定訳：七十人

ご自身の益のため、ご自身の苦しみを和らげるためにご自分の神性を用いるのはキリストの伝道の本分ではなかった。これを、このお方は自発的に引き受けられた。へりくだって人の性質を取り、このお方は人類家族の不自由、不運、苦悩に苦しまれるのであった。このお方はご自身の利益のために奇跡を行ってはならなかった。このお方は他の人々を救うために来られたのである。その伝道の目的は苦しむ者、圧迫されている者に祝福、希望、命をもたらすためであった。苦しんでいる人類の重荷と深い悲しみを負うためであった。(コンフロンテイション42, 43)

70人は、12人のように絶えずイエスと共にいたのではなかったが、このお方の教訓のおしえをしばしば聞いていた。彼らは、イエスご自身が働いておられたように働くために、その指示のもとに送られた。彼らはどこへ行っても、「神の国はあなたがたに近づいた。このお方のメッセージとその使者を受け入れる者はみなその王国に入るのを許される。これはあなたの訪れの日である」とのメッセージを響かせるべきであった。彼らは、人々が手の届く範囲におかれた祝福をつかむように導いてもらえるような方法で、神の真理を提示すべきであった。(今日神と共に113)

70人は「さあ、行きなさい。わたしがあなたがたをつかわすのは、小羊をおおかみの中に送るようなものである」との警告と共に送り出された(ルカ10:3)。しかし彼らは反対にあうために送り出されたけれども、勇気なく、力なく、弱々しくてはならなかった。自分たちに与えられた任務に調和したあらゆる適切な手段を実践し、イエス・キリストの王国に魂を勝ちとることを求めて、自分の資財を使い、自分自身をも使い尽くすべきであった。新しく力強い動きが新しく開始され、新しい時代が到来し、世に真理を前進させて行くのであった。(ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ｻﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ1894年12月10日)

7月20日

キリストのような態度を保つ

「ヨハネが〔イエスに〕言った、「先生、わたしたちについてこない者が、あなたの名を使って悪霊を追い出しているのを見ましたが、その人はわたしたちについてこなかったので、やめさせました」。イエスは言われた、「やめさせないがよい。だれでもわたしの名で力あるわざを行いながら、すぐそのあとで、わたしをそしることはできない。」（マルコ 9:38, 39）

また別の時にヤコブとヨハネが、伝道の仕事を始めたばかりのころ、ある人に会った。その人は、キリストに従う者として認められていないのに、キリストのみ名によって悪魔を追い出していた。弟子たちはその男に仕事を禁じた。そしてこうすることが正しいと思った。しかしこの問題をキリストの前に出したとき、キリストは彼らをしかって、言われた、「やめさせないがよい。だれでもわたしの名で力あるわざを行いながら、すぐそのあとで、わたしをそしることはできない」（マルコ 9:39）。どんな方法ででもキリストに親しみを示した者を拒絶すべきではなかった。弟子たちは狭い、排他的な精神にふけることなく、彼らが主の中に見てきたような広大な同情を示さなければならない。ヤコブとヨハネはこの男をしかることで、主の名誉を心にかけていると思っていた。しかし彼らは、自分たちのために嫉妬しているのだということがわかりはじめた。ヤコブとヨハネは自分たちの誤りを認めて、主の叱責を受け入れた。（患難から栄光へ下巻 246）

人がわれわれ自身の理想や意見に全面的に一致しないからといって、その人が神のために働くことを禁じることは正当ではない。キリストは偉大な教師であられる。われわれはさばいたり、命令したりしないで、おのおのけんそんにイエスの足下にすわり、彼について学ばねばならない。神が心を開かれた魂はみな、キリストがご自分のゆるしの愛をあらわされるチャンネルである。神の光をかかげている人たちの一人を落胆させ、そのことによって神が世に輝かそうと望んでおられる光をさえぎるようなことがないように、われわれはどんなにか気をつけねばならないことだろう。

キリストが引きよせておられる人に対してひとりの弟子が示した苛酷さと冷淡さは、―すなわち、キリストの名によって奇跡を行っていた人をヨハネが禁止したような行為、―その人の足を敵の道に向けさせ、その魂が失われる結果になるかも知れない。そうするよりも「大きなひきうすを首にかけられて海の深みに沈められる方が、その人の益になる」とイエスは言われた（マタイ 18:6）。（各時代の希望中巻 216, 217）

7月21日

成就している預言

「にせキリストたちや、にせ預言者たちが起って、大いなるしるしと奇跡とを行い、できれば、選民をも惑わそうとするであろう。」(マタイ 24:24)

今は、人が自分を喜ばせ、自分に栄光を帰しているような場合ではない。神の牧師たちよ、最高位を求めて争っているような場合ではない。厳粛なとき、すなわち牧師たちが廊と祭壇の間で涙を流し、「主よ、あなたの民をゆるし、あなたの嗣業をもろもろの国民のうちに、そしりと笑い草にさせないでください」と叫ぶべき時が来た(ヨエル 2:17)。牧師たちと民は、うぬぼれで自分の魂を高揚させる代わりに、神のみ前にまた互いに自分たちの罪を告白していなければならない。神の律法は無効にされており、律法の拘束力のある要求を擁護する人々の間ですら、その聖なる教訓を破る者がいる。聖書が家から家へと開かれ、男女がこれらの家庭に近づく道を見出し、人々の思いは神の御言を受け入れるために開かれる。そして危機がおとずれるとき、多くの人々は、サタンの欺瞞的な奇跡によってもたらされる恐ろしい困難に直面しても、正しい決定をする準備ができているであろう。この人々は、真理を告白し、夕方の5時にキリストと共なる働き人になるのであるが、一日中働いた人々と同じ賃金を受け取る。最後のテストを通じて岩のように堅く立つ堅固な信者たちの軍勢がある。しかし、その軍勢の中で旗手であった人々はどこにいるであろうか。罪を犯している人々に、真理を宣布し声を響かせていた人々は、どこにいるであろうか。彼らのうちの何人かはいない。わたしたちは彼らを探すが、ふるいのときに彼らは耐えることができず、敵の隊列へと移ったのである。

兄弟姉妹がた、主は増し加わる光をわたしたちに与えようと望んでおられる。……天使が、ダニエルに非常に興味深い預言を明らかにし、それらの成就を目撃することになるわたしたちのために記録させようとしたとき、その天使は「強くあれ。しかり、強くあれ」と言った。わたしたちはダニエルに明らかにされたのとまさに同じ栄光を受けるべきである。なぜなら、それはこの終わりの時代にいる神の民のためであり、彼らがラッパに確かな音を与えることができるためだからである。(ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1889年12月24日)

7月22日

用心せよ！

「そのとき、だれかがあなたがたに『見よ、ここにキリストがいる』、『見よ、あそこにいる』と言っても、それを信じるな。にせキリストたちや、にせ預言者たちが起って、しるしと奇跡とを行い、できれば、選民をも惑わそうとするであろう。」（マルコ 13:21, 22）

欺く者が来る。そして彼らは、神のための特別な働きをしていると主張し、進んだ敬神をもち、聖化されており、幻を見、夢を見ると公言するが、その一方で敵の働きをし、神の戒めを破っていることが分かる。わたしたちは用心して、これらの偽者をテストにかけなければならない。なぜなら「ただ律法と証とを求むべし。彼らのいうところ、この言葉にかなわずば、しののめあらじ」だからである（イザヤ 8:20 文語訳）。わたしたちはこの点においてキリスト、パウロ、ヨハネの厳粛な警告に聞きしたがい、敵の巧妙な策略にだまされないようにするのであろうか。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1894 年 9 月 27 日）

心霊術者の数が増えている。彼らは、サタンがキリストのところへ来たように、真理を持っている人々のところへやって来て、彼らが自分たちの力を表し、奇跡を行なって、自分たちが神の恩寵を受けた存在であり、真理を持っている民である証拠を示すようにと誘惑する。サタンはキリストに「もしあなたが神の子であるなら、これらの石がパンになるように命じてごらんなさい」と言った（マタイ 4:3）。ヘロデとピラトは、キリストがご自分の命にかかわる裁判にかけられているときに、奇跡を行うようにと求めた。彼らの好奇心は刺激されたが、キリストは彼らを満足させるために奇跡を行うことはなさらなかった。

心霊術者は真理を教える牧師と論争するために問題を押しつけてくる。もし彼らが断るなら、彼らに挑んでくる。サタンがキリストにしたように、彼らは聖書を引用して、「すべてを証明せよ」と言う。しかし証明するという彼らの考えは、彼らの欺瞞的な論法に耳を傾け、彼らの集まりに出席することなのである。しかし、彼らの集会の中には、闇の天使が死んだ友人の姿をとって、光の天使として彼らと交わるのである。

彼らの愛していた者が地上にいたときの見覚えのあるありさまで、光の衣を着てあらわれる。友人たちは彼らを教え、彼らと打ち解けて話し、そして多くの者が欺かれる。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1875 年 4 月 1 日）

悪の奇跡および迫害

「〔小羊のような獣は〕また、大いなるしるしを行って、人々の前で火を天から地に降らせることさえした。さらに、先の獣の前で行うのを許されたしるしで、地に住む人々を惑わし、かつ、つるぎの傷を受けてもなお生きている先の獣の像を造ることを、地に住む人々に命じた。」(黙示録 13:13, 14)

ここに預言されているのは単なる詐欺ではない。サタンの代理者たちが人の目をごまかして行なうようなことによってではなく、実際に彼らが行なう力をもっているその奇跡によって、人々は欺かれるのである。(各時代の大争闘下巻 307)

過去の時代に忠実な者に対して陰謀をたくらんだのと同じすぐれた知能が、いまなお神を畏れ、またその戒めに従う者を地上から抹殺しようとしている。サタンは、良心的に一般の習慣や伝統を受け入れるのを拒む謙遜な少数派に対して怒りをかきたてる。地位や評判のある人々が、神の民に敵対する相談をするために不法な者や恥ずべき者に加わる。富、才能、教育が、彼らに侮辱罪をかぶせるために結託する。迫害する支配者、牧師、教会員たちは、彼らに対して陰謀をたくらむ。声と筆により、豪語、脅迫、あざけりによって、彼らの信仰をくつがえそうとする。偽りの説明と怒った訴えによって、彼らは人々の激情をかきたてる。聖書の安息日の支持者に対して〔聖書はこのように言う〕とのみ言葉を提示する代わりに、彼らは欠乏をおぎなうために非道な法令に訴える。人気と後援を確保するために、法律制定者は日曜法令の要求に屈する。神を畏れる者は十戒の教訓の一つを破る制度を受け入れることはできない。(教会への証 5 巻 451)

サタンは人々に彼を神であると固く信じさせるために奇跡を行う。神の民はみな、今こそ第三天使のメッセージの中で与えられてきたとおりの真理の土台の上に立つべきである。あらゆる好ましい光景、行われるあらゆる奇跡は、できることなら選民をも惑わすために提示される。だれにとっても唯一の希望は、義のうちに真理を確かなものとした証拠をしっかりとつかむことである。これらをこの地上歴史の閉じるまでくり返し宣布しよう。(ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1906 年 8 月 9 日)

7月24日

三重の結合

「また見ると、龍の口から、獣の口から、にせ預言者の口から、かえるのような三つの汚れた霊が出てきた。これらは、しるしを行う悪霊の霊であって、全世界の王たちのところに行き、彼らを召集したが、それは、全能なる神の大いなる日に、戦いをするためであった。」(黙示録 16:13, 14)

プロテスタント主義がローマの権力の手をつかむために深淵をこえて手を伸ばすとき、心霊術と手をにぎるために底知れぬ淵をこえて手を伸ばすとき、そのときこの三重の結合の感化力のもとに、わが国はプロテスタントおよび共和主義の政府としての憲法のあらゆる原則を否定し、法王権の偽りと惑わしの布教事業の準備をする。そのときわたしたちは、サタンの驚くべき働きのときが来たことと終りが近いことを知ることができる。(教会への証 5 巻 451)

長い間その熟達した能力を欺瞞の働きに注いできた暗黒の君は、あらゆる階層あらゆる状況の人々に、彼の誘惑を巧妙に当てはめる。彼は、教養のある上品な人々に向かっては、心霊術をいっそう洗練された知的なものとして示す。こうして彼は、多くの人々を自分のわなに引き込むことに成功する。心霊術が与える知恵は、使徒ヤコブが「上から下ってきたものではなくて、地につくもの、肉に属するもの、悪魔的なもの」と述べたものである(ヤコブ 3:15)。(各時代の大争闘下巻 307)

天の栄光と過去の迫害がくりかえされるとき、地上に生きている神の民の経験は、とても思いも及ばないものである。彼らは神のみ座から流れ出る光の中を歩む。天使によって天と地の間には絶え間ない交信がある。そして悪天使に囲まれて、神であると主張しているサタンは、できることなら選民をも惑わそうとあらゆる種類の奇跡を行う。天の栄光と過去に繰り返された迫害が混じり合うときに地上に生きている神の民の経験がどのようなものであるかはとても想像できるものではない。彼らは神の御座から出ている光のうちを歩む。天使という手段によって、天と地の間には絶えず通信がなされる。そして、サタンは悪天使たちに囲まれて、神だと主張し、もし可能であれば選民をも欺こうとして、あらゆる種類の奇跡を働く。神の民は、奇跡を働くことに安全を見出すことはない。なぜなら、行なわれる奇跡をサタンが偽造するからである。試みられ、テストされる神の民は、自分たちのしるしを出エジプト 31:12 ～ 18 に語られた印のうちに見出すのである。彼らは自分たちの立場を生けるみ言葉、すなわち「と書かれている」の側に取らなければならない。これこそ、彼らが唯一安全に立つことのできる基礎である。(教会への証 9 巻 16)

不義を喜ばない

「不法の秘密の力が、すでに働いているのである。ただそれは、いま阻止している者が取り除かれる時までのことである。その時になると、不法の者が現れる。この者を、主イエスは口の息をもって殺し、来臨の輝きによって滅ぼすであろう。不法の者が来るのは、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽りの力と、しるしと、不思議と、また、あらゆる不義の惑わしとを、滅ぶべき者どもに対して行うためである。彼らが滅びるのは、自分らの救となるべき真理に対する愛を受けいれなかった報いである。そこで神は、彼らが偽りを信じるように、迷わす力を送り、こうして、真理を信じないで不義を喜んでいたすべての人を、さばくのである。」（テサロニケ第二 2:7 ～ 12）

もしわたしたちの命がキリストと共に神の内に隠されているなら、サタンの奇跡を行なう力は、すでに表されつつあるが、わたしたちを欺くことはない。……まさに時の終わりまで神の命令を守る人々がいる。彼らはキリストの苦難を分かちあうことを知るようになる。サタンの激しい悪意は、自分のときが短いのを知ると、彼らにむかって強められる。サタンは自分の惑わしの下にいる者については自信がある。しかし彼は自分に惑わされない者を、神の最終的な責めが自分に負わされるまで、迫害する。彼は、すでに欺かれている者を欺瞞にしっかりと閉じ込めるために、また他の者を欺くために奇跡を行う。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1896 年 9 月 22 日）

〔サタンは〕光の天使のように変装して、奇跡を行う人のように地上を歩く。彼は美しい言葉で高尚な心情を示し、良い言葉を語り、良い行為をなす。キリストの真似をするが、一つの点において、はっきりとした区別がある。サタンは人々を神の律法からそらせるのである。それにもかかわらず、彼は非常に巧妙に義を真似て、できることなら選民をも惑わそうとする。国王も、大統領も、高い地位にある支配者たちも、彼の偽りの理論に頭をたれるようになる。（同上 1897 年 8 月 17 日）

「真理を信じないで不義を喜んでいた」人々は、偽りを信じ、迷わす力に陥るままにされる（テサロニケ第二 2:12）。そのとき真理の光は、それを受けようと心を開くすべての人の上に輝き、バビロンに残っている主の子供たちはみな、「わたしの民よ。彼女から離れ去」れという招きの声に耳を傾けるのである（黙示録 18:4）。（各時代の大争闘下巻 93）

7月26日

欺瞞者の有罪判決

「しかし、獣は捕えられ、また、この獣の前でしるしを行って、獣の刻印を受けた者とその像を拝む者とを惑わしたにせ預言者も、獣と共に捕えられた。そして、この両者とも、生きながら、硫黄の燃えている火の池に投げ込まれた。」（黙示録19:20）

心霊術者は地獄への道を最も魅力的にする。これらの惑わす教師たちは、闇の霊を天の純潔な衣でおおい、聖書の真理で防備を固めていないものを欺く力を持っている。むなしい哲学が安全な道として地獄への道を示すのに用いられる。高度に働いた想像力と音楽の調べのような声で、彼らはその広い道を幸福と栄光の道として描く。サタンがエバに、彼らが思ってもみなかった自由と無上の幸福を楽しむことができると示したように、野心が惑わされた魂の前に掲げられる。地獄への広い道を旅している人々はほめそやされ、彼らの死後は永遠の世界における最高の地位へとあがめられている。輝く衣を着て高められた天使のように見えるサタンは、世の贖い主を誘惑したが成功しなかった。しかし彼が光の天使のように人間のところへ来るとよりよく成功する。彼は忌むべき目的を隠し、永遠の真理に堅く錨を下ろしていない不注意な者を惑わすのにあまりにもよく成功している。

富、権力、才能、雄弁、自尊心、ゆがんだ理性、熱情は、広い道を魅力的にする彼の働きをなすために動員される。しかし彼らが世の贖い主に敵対して語った一つ一つの言葉は彼らに戻り、ある日、彼らの罪深い魂の中で溶けた鉛のように燃える。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1875年4月1日）

洪水が高く地を覆っていたとき、果てしのない水の海のようであった。神が最終的に地を清められるとき、それは果てしのない火の海のようになる。神が洪水の激動のただ中で箱舟を守られたのは、その中に8人の正しい人が入っていたからであった。このお方は義人アベルから生きている最後の聖徒に至るまで、すべての時代の忠実な者が入っている新エルサレムをお守りになる。（霊の賜物3巻87）

7月27日

信者の心のうちにおこる奇跡

わたしたちは、こんなに尊い救をなおざりにしては、どうして報いをのがれることができようか。この救は、初め主によって語られたものであって、聞いた人々からわたしたちにあかしされ、さらに神も、しるしと不思議とさまざまな力あるわざとにより、また、御旨に従い聖霊を各自に賜うことによって、あかしをされたのである。」(ヘブル 2:3, 4)

わたしたちは、入念に次を自問しなければならない、わたしは現在の到達度で聖なる神の御前に立つことができるのであろうか。もし審判の大いなる日にわたしたちが足りない者であれば、言い訳はきかない。なぜなら、わたしたちは神の御言に接してきたからである。聖書をあなたの教訓の書としなさい。なぜなら、わたしたちが聖化されるのは、その真理に服従することによってだからである。わたしたちの救いの働きを確かなものとするために、神はそのひとり子という賜物をわたしたちの世界に与えてくださった。わたしたちはこれほどの無限の犠牲を払って、わたしたちのために買ってくださった祝福を受け入れるのであろうか。このお方は、わたしたちが欲望を通じて世界に蔓延している堕落を逃れて、神性にあずかることを可能にしてくださった。

わたしたちの宗教が、おもに安息日に教会へ来て、説教を聞く人々の一人に数えられ、それから罪深い習慣を続けるために自分の家にもどっていくことで成り立っているという印象を与えないようにしなさい。……キリストはわたしたちが取り組むべき型をわたしたちに与えておられる。しかし、わたしたちが神の助けによって勤勉に努力しないかぎり、その目標に到達することはできない。わたしたちは、魂と体と霊が、神へと聖化されなければならない。

わたしたちは日々キリストから学んでいるのであろうか。もし学んでいなければ、わたしたちは確かに必要不可欠な知識に欠ける。わたしたちはクリスチャン経験における虚弱なものとなる余裕はない。永遠のために定められている決算の日がいつであるかを、わたしたちは言うことはできないからである。わたしたちは絶えず信仰を増し、イエス・キリストに似た者とならなければならない。もしわたしたちが自らをへりくだらせるなら、主はわたしたちを引き上げてくださる。わたしたちは自分を持ち上げようと試みることはできるが、キリストが品性を評価なさるその日に、それがわたしたちに有利に考慮されることはない。

ああ、わたしたちは、わたしたちの多くは、あまりにも自己に満たされている！わたしたちは自分特有の気質と傾向にあまりにもしっかりと結びつけられている。この偉大な「わたし」が死に、信仰によってキリストがわたしたちの心に宿ってくださるように、わたしたちは今こそ御言であるお方にしっかりとついて従うだろうか。(ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1907年8月15日)

7月28日

キリストの品性を反映

「見よ、わたしと、主のわたしに賜わった子たちとは、シオンの山にいます万軍の主から与えられたイスラエルのしるしであり、前ぶれである。」（イザヤ 8:18）

キリストが神のみもとからこられたという最高の証拠は、キリストの生活が神のご品性をあらわしていたことである。キリストは神の働きをし、神のみことばを語られた。このような生活こそあらゆる奇跡の中で最高の奇跡である。

今日、真理のことばが示されると、ユダヤ人のように、わたしたちに証拠をみせてください、わたしたちのために奇跡を行ってくださいと叫ぶ者が多い。キリストは、パリサイ人の要求によって奇跡を行われたことはなかった。彼は荒野でサタンのそそのかしに応じて奇跡を行われなかった。キリストは、われわれが自分自身を弁護したり、不信と高慢の要求を満足させたりするために、われわれに力をお与えにならない。しかし福音が神から出たものであることを示すしるしがないわけではない。われわれがサタンの束縛をたち切ることができるのは、一つの奇跡ではないだろうか。サタンに対する敵意は人の心に自然にあるものではなくて、それは神の恵みによってうえつけられるのである。頑固で、わがままな意志に支配されていた者が自由になり、神が天の使者を通して引きよせられるのに全心全霊をもって応ずるとき、一つの奇跡が行われる。強力な欺瞞に陥っていた人が道徳的真理をさとるようになった時もそうである。魂が悔い改めて、神を愛し、神の戒めを守るようになるたびに「わたしは新しい心をあなたがたに与え、新しい霊をあなたがたの内に授け」るとの神の約束が成就される（エゼキエル書36:26）。人間の心の変化、すなわち人の品性が一変することは、一つの奇跡であって、それは生きておられる救い主が魂を救うために働いておられる証拠である。キリストのうちにあって矛盾のない生活は、一つの大きな奇跡である。神のみことばが説かれるときにいつもあらわされるしるしは、聖霊が臨在されて、聞く者にそのことばを新生の力としてくださることである。これこそ神がご自分のみ子の使命について世人の前に示されるあかしである。

イエスにしるしを望んだ人々は、不信のうちに心がかたくなになっていたので、キリストのご品性のうちに神のみかたちをみとめなかった。彼らは、キリストの使命が聖書の成就であることをみとめようとしなかった。（各時代の希望中巻 170, 171）

7月29日

必要に応じて与えられる賜物

「このように、あなたがたは悪い者であっても、自分の子供には、良い贈り物をすることを知っているとすれば、天の父はなおさら、求めて来る者に聖霊を下さらないことがあろうか。」（ルカ 11:13）

キリストとその弟子たちによって、奇跡が行なわれなかったであろうか。その同じあわれみ深い救い主が、今日も生きておられて、ご在世のころと同様に信仰の祈りに喜んで耳を傾けてくださるのである。自然が超自然と協力するのである。われわれがこのようにして求めなければ与えられないものが、信仰の祈りにこたえて、われわれにさずけられることが、神のご計画の一部である。（各時代の大争闘下巻 269, 270）

タラントは、活用すれば、増加する。成功は、偶然や幸運の結果ではない。それは、神ご自身の摂理の結果で、信仰と思慮深さ、徳と不撓（ふとう）不屈の努力の結果である。神は、わたしたちが、すべてのたまものを活用することを望んでおられる。そして、今持っているたまものを活用すれば、さらに大きなたまものを用いるようになる。神は、わたしたちに欠けている特質を超自然的にお与えになったりしない。しかし、わたしたちが、持っているものを活用するとき、神はわたしたちと共に働いて、すべての能力を増大し強化してくださる。主の奉仕のために全心をこめて熱心に犠牲をするならば、そのたびにわたしたちの能力は増すのである。わたしたちが、自分を聖霊の働かれる器として服従するときに、神の恵みがわたしたちのうちに働いて、古い傾向を退け、強い性癖に勝利し、新しい習慣を形造るのである。わたしたちが、聖霊のささやきに耳を傾けて従うならば、わたしたちの心は拡大され、ますます神の力を受け、さらに、よい働きをすることができるのである。眠っていた精力は呼びさまされ、まひしていた機能も新しい生命を受けるのである。

神の召しに従順に応じるならば、どのような卑しい働き人にも、必ず神からの援助が約束されている。このように大きなきよい責任を受けいれること自身が品性を高める。それは、知的、霊的能力を最高に活動させることを要求し、心と思いとを清めるのである。神の力を信じることによって、弱いものがどんなに強くなって不屈の努力を続け、大きな成果を生むようになるかは、驚くばかりである。たとえ、知識はわずかしかなくても、その少しの知識をへりくだった気持ちで人びとに伝えるものは、全天の宝庫が彼の要求に応じて開かれることを知るであろう。光を伝えたいと望めば望むほど、さらに光が与えられるのである。（キリストの実物教訓 329, 330）

7月30日

満ち満ちた聖霊

「あなたがたは春の雨の時に、雨を主に請い求めよ。主はいなずまを造り、大雨を人々に賜い、野の青草をおのおのに賜わる。」（ゼカリヤ 10:1）

わたしたちには、自分の不信仰によって祝福を制限し、それによって得ることのできたはずの利点を失うのでないかぎり、この世のこの時代に聖霊が強力な力で働いて下さるという保証がある。一か所に入ったあと、み言葉がもたらされ、新しい領域が加わる。真理の勝利を推し進めなさい。かなたの地域に十字架を高く掲げよう。ぶどう畑は世界である。新しい地域を加える働きを前進させ、主のメッセージを燃えるともし火として伝えていかなければならないときに、定着することによって多くの金銭を浪費してきた。

過去の時代に聖なる人々は聖霊に動かされたときに語った。古代に預言者は自分たちの内におられる神の御霊が何を示されたのかを探り調べた。そのとき御霊は、イエスがまだ栄光を受けておられなかったので、力にあふれてはいなかった。ペンテコステの日から始まって、聖霊はむすこ娘、僕、はしためにに注がれるべきであった。あらゆる丘陵地帯に、低地に、谷に、主のための謙遜な働き人が起こされるべきである。わたしたちの世で働いている聖霊の聖なる感化力がしるしと不思議として存在すべきである。なぜなら神の民は主の建物の中にある生ける石として、道徳的な暗闇のただ中で輝いている特殊な民、聖なる国民だからである。最も弱く、最も乏しい者も、神を信じる信仰を働かせ、委ねられた力を活用するなら、聖霊の働きのもとに高められ、精錬され、品性が完全になる。彼らがへりくだって悔い改め、御霊の形成に屈服するなら、このお方の永遠の満ち満ちた徳が、何を意味するかを知るようになる。……

エリヤの伝道の成功は、彼が持っていた遺伝的な資質によったのではなく、自分自身を聖霊に服従させたからであった。彼に与えられていたこの聖霊は、神を信じる生きた信仰を働かせるすべての者に与えられる。……わたしたちは率直にまじめに次の質問をよく考えるべきである。わたしたちは、聖霊がわたしたちを通して変化させる力をもって働くことができるために、神のみ前に自らをへりくだらせるのであろうか。（サザン・ワーク 1899 年 12 月 5 日）

キリストは空の器を待っておられる

「わたしの戒めに心をとめよ、見よ、わたしは自分の思いを、あなたがたに告げ、わたしの言葉を、あなたがたに知らせる。」（箴言 1:23）

多くの人々は、キリストが行われたすばらしい奇跡のことを聞くことによって、このお方のことを聞いた。キリストが、ご自分の弟子たちはご自身がなされたよりももっと大きな働きをすると仰せになったとき、彼らがその力をもっと高尚に働かせるという意味で言われたのではなかった。このお方は彼らの働きがより大きな規模で行われることを述べられたのである。このお方は単に奇跡を行うことではなく、聖霊の働きのもとに起こるすべてのことについて言われたのである。（ホーム・ミッシヨナリー 1897 年 7 月 1 日）

キリストは聖霊の賜物をご自分の教会に約束されたが、その約束は、最初の弟子たちと同じようにまたわれわれのものである。しかしほかのすべての約束と同じように、それは条件つきで与えられている。主の約束を信じ、これをわがものと主張する人は多い。彼らはキリストについて語り、聖霊について語るが、何の益も受けない。彼らは天来の力によってみちびかれ、支配してもらうために魂をあけわたそうとしない。われわれが聖霊を用いることはできない。みたまがわれわれを用いてくださるのである。みたまを通して、神は民のうちに働き、「その願いを起させ、かつ実現に至らせ」てくださるのである（ピリピ 2:13）。しかし多くの者はこれに従おうとしない。彼らは自分で自分を支配したいのである。これが、彼らが天の賜物を受けない理由である。みたまは、へりくだった心で神に仕え、そのみちびきと恵みを待ち望む者にだけ与えられる。神の力は彼らが求め、受けるのを待っている。この約束された祝福を信仰によって求めるときに、ほかのすべての祝福は次々と与えられる。それはキリストの恵みの富にしたがって与えられるのであって、主はどの魂にもその受け入れる能力にしたがっていつでも与えてくださる。（各時代の希望下巻 158）

神は男女に自己を空にするように要求しておられる。そのとき御霊は妨げられることなく入ることができるからである。自分で働きをしようとするのを止めなさい。「生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである」との使徒の言葉があなたのものとなるまで、あなたの内に、あなたを通して働いてくださるよう、神に願いなさい（ガラテヤ 2:20）。（サザン・ワーク 1899 年 12 月 5 日）

あなたが自分の思いから虚栄と軽率さを空にするならば確かに、その真空は神があなたに与えようと待っておられるもの、すなわちこのお方の聖霊で満たされる。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1892 年 3 月 15 日）

8月1日

信仰の霊的賜物

「各自が御霊の現れを賜わっているのは、全体の益になるためである。すなわち、ある人には御霊によって知恵の言葉が与えられ、ほかの人には、同じ御霊によって知識の言、またほかの人には、同じ御霊によって信仰、」（コリント第一 12:7 ～ 9）

自分のタラントはほとんど価値がないと思える最もつつましい信者は、自分の力を働かせることによって自分のタラントが増し、小銭を用いて、神の栄光のために自分の能力をつかって商うことにより、紙幣を得られることがわかるようになる。あなたの知力、霊的力、体力を神に捧げなさい。そうすればそれらは主人であるお方の奉仕に用いられるときに、それらは成長する。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1895 年 9 月 10 日）

身体的な命は、神の性質が男女を通して満ち満ちてあらわされるように、注意深く教育し、培い、発達させるべきである。神は、ご自分が人々に与えておられる知性を、彼らが用いることを期待なさる。このお方は、彼らがご自身のためにあらゆる理性の力を用いることを期待される。彼らは、良心にそれが占めるように定められた最高の地位を与えるべきである。知力と体力は、愛情と共に、最高の有用性に到達できるよう培われるべきである。このようにしてキリストが世にあらわされる。この骨の折れる努力によって、人は、魂を永遠の命へと救うのに、偉大な主人である働き人と協力する資格を与えられる。これこそ神がわたしたちにタラントを委ねておられる理由―わたしたちが天の王国で命、すなわち永遠の命を持つことができるため―である。

神は、ご自分が人に与えておられる器官や能力が一つでもおろそかにされ、誤用され、持つことができたはずの健康と有用性を失うのをご覧になって、お喜びになるであろうか。それゆえ、信仰の賜物を培いなさい。勇敢に、魂の宮を傷つけるあらゆる行為に打ち勝ちなさい。わたしたちはまったく神に頼っており、このお方のわたしたちへの取扱いの中にそのご目的や、この取り扱いの結果を見ることができなくても、信じることによってわたしたちの信仰は強められる。信仰は前へ、上へと、きたるべき事柄を指し示し、わたしたちをこのお方にあって完全にすることができる唯一の力をつかむのである。（同上 1900 年 11 月 6 日）

ああ、神の子であると主張するその人々が、神がご自分の栄光のために彼らに委ねておられるあらゆるタラントを運用したいのであればよいのに！すべての者は、信仰が完全な信頼へと成長できるために、神のみ約束を信じる信仰を働かせるために、自らを教育しなければならない。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1894 年 7 月 26 日）

すべての人は信仰の量りにしたがって与えられている

「わたしは、自分に与えられた恵みによって、あなたがたひとりびとりに言う。思うべき限度を越えて思いあがることなく、むしろ、神が各自に分け与えられた信仰の量りにしたがって、慎み深く思うべきである。」（ローマ 12:3）

救いの相続人となる人々に奉仕する神の御使たちは、すべての者の事情を知っており、各々個人が持っている信仰の量りを理解している。（教会への証 2 巻 125）

キリストの恵みと義は無償の賜物として提供されている。信仰による義という主題を研究し、実践すべきである。老いも若きもみな、キリストの栄光を眺めたいのであれば、岩なるお方の裂け目に入らなければならないことをはっきり理解しよう。もしわたしたちがクリスチャンになりたいのであれば、生来の習慣を持ち続けたり、わたしたちの救い主を辱める自分の品性の弱さに執着したりすることはできない。この罪やあの罪は「わたしの方法」の結果なのですとの言い訳はできない。キリスト従うと公言する者が、自分の方法をやめ、キリストの方法を取らないかぎり、いつも動揺ばかりで、海の波のようにつねに揺れ動くことになる。自分自身の方法を大事にし、生来自分を喜ばせる事柄をなすことによって、必然的にキリストのご臨在からの分離という結果がもたらされる。そして、そのときわたしたちには、力がないのである。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1893 年 9 月 14 日）

だれも、自分の欠点はそれほど嘆かわしいものではないと考えて、自分を欺いてはならない。もし彼がこれらの欠点を見張らないなら、それらは彼の破滅の原因となり、彼が交わる人々のうちに再現される。神がわたしたちに、たえず見張り、祈り、あらゆる不完全に対して戦うことを要求しておられると思わない人々は、敵に惑わされている。彼らが自分の態度を変えない限り、恵みに成長することはできない。わたしたちはみな品性のあらゆる欠点を克服する決心を求めて熱心に祈る必要がある。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1901 年 6 月 11 日）

神は一人びとりに信仰の量りを与えておられるので、各々信仰のうちに歩むべきである。彼は、助けを求めて神に頼る信仰を自分が持っていることを示すべきである。神は一人びとりに信仰の量りを与えておられるので、彼はそれを働かせなければならない。彼は自分の光を輝かせるべきである。（説教と講和 2 巻 133）

8月3日

信仰の実例

「わたしたちの信仰こそ、世に勝たしめた勝利の力である。」（ヨハネ第一 5:4）

月曜日の朝、わたしたちはわたしの夫のためにテントで祈りの時間を持ち、大医師であるお方に彼の病状を提示した。それは尊い時間であった。天の平安がわたしたちに宿った。〔ヨハネ第一 5:4 引用〕。このみ言葉がわたしの思いに力強く迫った。……

それからわたしたちは安息日には、手をつけずにいた働きを取りかかり、その朝は罪人と背教者のための特別な働きのために費やした。彼らは十歳の子供から白髪の男女にまでいたり、二百人が祈りのために前に出てきた。この人々のうち二十人以上がはじめて命の道に足を踏み入れていた。……

月曜日の夕方、わたしはマサチューセッツ州のダンバーで進行中の幕屋集会の壇上に立った。大勢の会衆がわたしの前にいた。わたしは筋だった言葉でわたしの思考力を整理するにはあまりに疲れていた。わたしは助けがなければならないと感じ、心を尽くしてそれを求めた。どの程度の成功であってもわたしの働きに伴うのであれば、それは力あるお方の力強さによってであることを、わたしは知っていた。

わたしが話そうとしたとき、主の御霊がわたしの上に宿られた。わたしはそれをわたしの心への電気ショックのように感じ、すべての痛みは即座に取り除かれた。わたしは脳内に集中している神経の非常な痛みに苦しんでいたが、これもまた完全に取り除かれた。ひりひりしていたのどと肺の痛みも楽になった。心臓の痛みのせいで、わたしの左腕と手はほとんど役に立たなくなっていたが、本来の感覚が今戻った。わたしの思いははっきりとしており、わたしの魂は神の光と愛に満ちあふれていた。神の御使が火の壁のようにあたり一面にいるように思えた。

わたしの前には審判のときまで再び会うことはないかもしれない人々がいた。そして彼らの救いを願う思いがわたしを導き、わたしが彼らの血から解放されるように、熱心に神への畏れをもって語らせた。一時間十分に及ぶわたしの努力に、大いなる解放が伴った。イエスがわたしの助け手であったので、栄光はすべてこのお方のみ名に帰す。聴衆は非常に注意深かった。（ライフ・スケッチ 226, 227）

8月4日

英雄のように固守せよ！

「聖徒たちに、ひとたび伝えられた信仰のために戦う」（ユダ３欽定訳）

キリストの弟子であると自称する多くの人々の中には、ユダヤ人の心の大半を占めていたのと同じ誇りや形式主義や利己主義、同じ圧迫の精神が存在しているのである。将来、キリストの代表者であると主張する人々が、キリストと使徒たちをあしらった祭司やつかさたちと同様の行為をするであろう。やがて、神に忠実なしもべたちが通過しなければならない大いなる危機において、彼らは、同様の心のかたくなさ、同様の残酷な決意、同様の頑強な憎しみに出会わなければならない。

来るべき悪しき日において、良心の命じるところに従って、恐れることなく神に仕えようとする者はすべて、勇気と堅実さと、神および神のことばに対する知識を持っていなければならない。神に忠実な者は、迫害を受け、その動機は疑われ、その最善の努力は曲解され、その名は悪しき者として除外される。サタンは、あらゆる欺瞞の力を用いて人々の心に働きかけ、理解力をにぶらせ、悪を善と見せかけ、善を悪と見せかけようとする。神の民の信仰が強く純潔であればあるほど、そして、神に従おうとする彼らの決意が固ければ固いほど、サタンは、義人であると主張しながら神の律法をふみにじっている人々の怒りを、彼らに対して燃えたたせようとする。ひとたび聖徒たちに伝えられた信仰を固く保っていくには、最も堅固な信頼と最も英雄的な意志がなければならない。

神は、神の民が、間もなくやってくる危機に対して準備することを望んでおられる。準備があろうとなかろうと、彼らは、みなそれに当面しなければならない。そして、神の標準にその生活を一致させた者だけが、試練と試みの時に固く立つことができるのである。世俗の統治者たちが、宗教界の指導者たちと連合して、良心の問題について命令を発する時に、真に神を恐れ神に仕える者がだれであるかが、はっきりするのである。暗黒がその極に達するときに、神に似た品性の光が、最も輝かしく照りはえるのである。他のすべてのより頼むものが倒れ去るとき、主に固く信頼する者がだれであるかが、わかる。真理の敵があたり一面にいて、主のしもべたちに災いをもたらそうとしているときに、神は彼らを保護して、幸いをもたらされる。神は、彼らにとって、疲れた地にある大きな岩の陰のようになられるのである。（患難から栄光へ下巻 119, 120）

8月5日

無からあらわれる創造

「さて、信仰とは、望んでいる事がらを確信し、まだ見ていない事実を確認することである。……信仰によって、わたしたちは、この世界が神の言葉で造られたのであり、したがって、見えるものは現れているものから出てきたのでないことを、悟るのである。」(ヘブル 11:1, 3)

創造の働きは科学で説明することは決してできない。生命の神秘をどのような科学が説明できるというのであろうか。

神が世界を存在させられたとき、物質を創造されたのではないという理論には基礎がない。わたしたちの世界を造られるにあたって、神はすでに存在している物質の恩恵をこうむられたのではなかった。それどころか、物質的なものであれ、霊的なものであれ、万物は主エホバのみ声の前に立ち、このお方ご自身の目的のために造られたのである。諸天と天の万軍、地とそこに住むものはみな、み手のわざであるばかりでなく、主の口の息によって存在するようになったのである。(教会への証 8 巻 258, 259)

他のすべての知識にまさるものは神のみ言葉の理解である。このお方の戒めを守ることには大きな報いがあり、地上のどのような誘惑にも、クリスチャンに自分の忠誠の義務を一瞬たりともためらうようなことがあってはならない。富、名誉、世的な見せびらかしは、神の怒りの火の前に消滅するかすにすぎない。

ご自分の忠実な者に「前進せよ」と度々お命じになる主のみ声は、彼らの信仰を最高度に試みる。しかし、もし彼らがすべての不確かさの影が自分の理解力から取り除かれるまで、服従を延ばし、失敗や敗北の危険を犯そうとしないなら、彼らは決して進むことはない。自分の前にすべてがはっきりと明らかになるまで、神の意志に譲ることも、神のみ約束を信じる信仰を持つことも不可能であると考える人々は、決して一つも譲ることがない。信仰は知識の確信ではなく、それは「望んでいる事がらを確信し、まだ見ていない事実を確認することである」(ヘブル 11:1)。神の戒めに従うことがこのお方の好意を得る唯一の方法である。「前進せよ」はクリスチャンの合言葉でなければならない。(同上 4 巻 27, 28)

神の思いの中には、世界が造られる前から男女の伝道が存在していた。(原稿リリース 18 巻 380)

8月6日

二種類の人々

「信仰によって、アベルはカインよりもまさったいけにえを神にささげ、信仰によって義なる者と認められた。神が、彼の供え物をよしとされたからである。」（ヘブル 11:4）

カインは約束の犠牲について、また犠牲の供え物の必要について、心中に不平と不信をいだきながら神の前に来た。彼の供え物は、罪の悔い改めの表明ではなかった。彼は、今日の多の人々と同様に、神に指示された通りの計画に従い、約束の救い主の贖罪に全く自分の救いをゆだねることは弱さを承認することであると思った。彼は、自己信頼の道を選んだ。彼は自分の功績に頼った。彼は小羊を持ってきて、その血を供え物にまぜることをしないで、**彼の**実、**彼の**労働の産物をささげた。彼は自分から神にささげるものとして供え物をささげ、それによって、神に喜ばれたいと思った。……

アベルは、贖罪の大原則を理解した。彼は自分が罪人で、彼の魂と神との間の交わりを、罪とその刑罰である死とが妨げているのを知った。彼は、ほふられた犠牲、すなわち、犠牲にされた生命をたずさえてきて、彼が犯した律法の要求を認めた。……

カインはアベルと同様に、こうした真理を学んで受け入れる機会があった。彼は、独断的決定の犠牲者ではなかった。兄弟のうちのひとりが受け入れられて、他のひとりが退けられるように神は定められたのではなかった。

アベルは、信仰と従順を選び、カインは、不信と反逆を選んだ。万事はこの点にかかっていた。

カインとアベルは、終末に至るまで世界に存在する二種類の人々を代表している。一方は罪のために定められた犠牲を受け入れるが、他方は、あえて自分の功績にたよろうとする。彼らの犠牲は、神の仲保のいさおしによらないものであって、神の恵みにあずかることはできない。……

カインの模範に従う礼拝者は、世界の大半をはるかに越している。というのは、ほとんどすべての偽りの宗教は、人間自身の努力によって救いを得ることができるという同じ原則に基づいているからである。人類は贖罪ではなく、文明の発達、すなわち、洗練と向上と更生とが必要であるという人もある。……人類は、自分を再生させる力を持ち合わせない。それは、神に向かって向上するのでなくて、サタンのほうへ堕落する傾向がある。キリストだけがわれわれの希望である。（人類のあけぼの上巻 66 ～ 69）

8月7日

信仰によって踏み出す

「信仰によって、アブラハムは、受け継ぐべき地に出て行けとの召しをこうむった時、それに従い、行く先を知らないで出て行った。」（ヘブル 11:8）

神のみ言葉が〔アブラハム〕にのぞんだが、そこに多額の収入や偉大な評価、世的な誉れといったこの世におけるうれしがらせるような展望が示されることはなかった。……彼は、巡礼、他国の者となるために自分の国、家、親族、若いときにかかわりのあったすべての楽しい交際を捨てた。

「キリストに代わって」語るべき人が、神の大いなる働きのために神が彼らを教育し、資格を与えることができる立場に立つためには、しばしば多くの人が思う以上に、若い時代の交際を断ち切ることが必要不可欠である。親類や友人は、しばしば神がご自分のしもべに与えようと計画しておられる教えを大いに妨げると、神がお思いになる感化力を持っている。世に光を掲げるべき人々を、もし聞き従えば、聖なる働きからそらすことになるような勧告が、天と密接なつながりのない人々によってなされる。神がアブラハムをお用いになることができる前に、彼は以前の交際仲間から離れなければならない。それは彼が人間の感化力に支配されず、人間の助けに頼らないためである。今や彼は神とつながりを持つようになったので、この人はこれからのち見知らぬ人々の中で住まなくてはならない。彼の品性は世のすべての人と異なった特別なものでなければならない。……

アブラハムの質問しない服従は、聖なる記録の中に見られる、神への信仰と信頼のもっとも際立った例の一つである。外に見える証拠は何もなく、自分の子孫がカナンを所有するという裏づけのない約束だけで、彼は神の導かれるところへ従って行った。完全にまごころから自分の側の条件に従い、主はご自分のみ言葉を忠実に実行なさると確信していた。父祖は神が自分の義務を指し示されるところへはどこへでも行った。彼は恐れることなく荒野の中を突き進み、「神が語られたのだ。わたしはそのみ声に従っている。このお方はわたしを導き、わたしを守られる」という一つの思いで、偶像教徒のただなかを進んだ。

アブラハムが持っていたのとまったく同じ信仰と確信が、今日の神の使者に必要である。（教会への証 4 巻 523, 524）

8月8日

信仰は言い訳をしようとしない

「信仰によって、アブラハムは、試錬を受けたとき、イサクをささげた。すなわち、約束を受けていた彼が、そのひとり子をささげたのである。この子については、「イサクから出る者が、あなたの子孫と呼ばれるであろう」と言われていたのであった。彼は、神が死人の中から人をよみがえらせる力がある、と信じていたのである。」（ヘブル 11:17 ～ 19）

神が語られたのだ、そしてそのみ言葉に従わなければならない。アブラハムは年老いていたが、これが彼を義務から免除をすることはなかった。彼は信仰の杖をにぎりしめ、口もきけないほどの苦悩のうちに、青春のばら色にかがやく健康的な美しいわが子の手に支えられて、神のみ言葉に従うために出かけた。この非常に年老いた父祖は人間であった。彼の情熱と愛着はわたしたちと同様であって、自分の息子を愛していた。この子は老齢の慰めであり、主のみ約束により与えられた子であった。

しかしアブラハムは、もしイサクがほふられるなら、神のみ約束はいかに成就されるのかと質問するために立ち止まろうとはしなかった。彼は自分の痛む心と論じるためにとどまろうはせず、まさに文字通り、神のご命令を実行に移した。そしてまさに子供の震える肉体に刃物が刺しとおされようとするそのとき、「わらべに手をかけてはならない。」「あなたの子、あなたのひとり子をさえ、わたしのために惜しまないので、あなたが神を恐れる者であることをわたしは今知った」との言葉があった（創世記 22:12）。

この信仰の大いなる行為は、時の終りまですばらしい例として世に輝き出るために、聖なる歴史のページに記録されている。アブラハムは、自分の老齢のために神に従うことを免除してほしいとは嘆願しなかった。彼は「わたしは白髪で、成人男子の活力は衰えています。イサクがいなくなれば、だれがわたしの晩年を慰めるでしょうか。年老いた父親がどうやって一人子の血を流すことができるでしょうか」とは言わなかった。否、神が語られたのであるから、人は質問することなく、つぶやくことなく、意気阻喪することなく従わなければならない。

わたしたちは、今日自分たちの教会の中で、アブラハムの信仰を必要としている。それが教会員の周りにとりまいている闇、すなわち神の愛のかぐわしい日光を締め出し、霊的な成長を妨げている闇を照らす必要がある。年齢がわたしたちを神に従うことから免除することは決してない。わたしたちの信仰は良い働きに富むものでなければならない。なぜなら働きのない信仰は死んだものだからである。実行されたあらゆる義務、イエスのみ名で行われたあらゆる犠牲は非常に大いなる報いをもたらす。（教会への証 144, 145）

8月9日

母親の教えの実

「信仰によって、モーセは、成人したとき、パロの娘の子と言われることを拒み、罪のはかない歓楽にふけるよりは、むしろ神の民と共に虐待されることを選び、キリストのゆえに受けるそしりを、エジプトの宝にまさる富と考えた。それは、彼が報いを望み見ていたからである。」（ヘブル 11:24 ～ 26）

ヨケベデは奴隷の女であった。彼女の身分は卑しく、その重荷は大きかった。しかし世はヨケベデを通して与えられたほどの大きな祝福を、ナザレのマリヤを除いては、他のどんな女からも受けたことはない。彼女は、子供がまもなく自分の手を離れて、神を知らない人々の手で育てられなければならないことを知って、ますます熱心に、その子の魂を天に結びつけようと努力した。彼女は幼いモーセの心に、神に対する愛と忠誠心を植えつけようとした。そして、この働きは、忠実になし遂げられた。モーセは、後年どんな影響をうけても、母親が一生の重荷として自分に教えさとしてくれた真理の原則から離れることがなかった。

ヨケベデのむすこモーセは、ゴセンの貧しい家庭から、パロの宮殿にひきとられ、エジプト王女のいとし子として迎えられた。モーセは、エジプトの学校で、最高の文武の教育をうけた。モーセのりっぱな容貌や体格から受ける容姿の大きな魅力、教養をつんだ知性と貴公子然たる態度、武官としての盛名―そうしたことのために彼はエジプト国民の誇りとなった。エジプト王は、祭司職の一員でもあったので、モーセは、異教の神の礼拝にあずかることを拒んではいたが、エジプトの宗教の奥義のいっさいを伝授された。その当時はまだ、エジプトは、国々の中で、最も勢力があり、また最も高い文明を保っていたので、モーセは、その未来の君主として、この世で与えられるかぎり最高の栄誉を継ぐ者であった。しかし彼の選択は、それよりももっと貴重な選択であった。モーセは、神の栄えと、踏みつけられているイスラエル人の救済のために、エジプトの栄誉を犠牲にした。（教育 59, 60）

モーセは王の宮廷におり、将来の王冠が彼の前にあった。しかし彼は魅力的な誘惑から離れた。（教会への証 3 巻 406）

8月10日

わたしたちの問題を神に委ねる

「このほか、何を言おうか。もしギデオン、バラク、サムソン、エフタ、ダビデ、サムエル及び預言者たちについて語り出すなら、時間が足りないであろう。彼らは信仰によって、国々を征服し、義を行い、約束のものを受け、ししの口をふさぎ、」（ヘブル 11:32, 33）

悩み苦しみに会うものはすべて神を呼び求めるとよい。冷酷な人びとにたよることをしないで、創造主に、あなたの求めを申し上げなさい。砕けた心をもって、神に来るものは、だれ一人しりぞけられることはない。心からの祈りは、決して消えてしまうものではない。天の聖歌隊の賛美を受けておられる神は、弱々しい人間の叫びをも聞かれる。わたしたちが、へやの中で心の願いを申し上げたり、あるいは、道を歩きながら祈ったりすると、そのことばは宇宙の王のみ座にまで達する。それはだれの耳にも聞こえないであろうが、消え去ってしまったり、忙しい仕事に取りまぎれて、なくなったりしない。何も、人の心の願いを消し去ることはできない。祈りは街頭の騒音や群衆の混雑をこえて、天の宮廷へと上っていく。わたしたちが語りかけているのは、神である。そして、神は、わたしたちの祈りを聞かれるのである。

自分にはなんの価値もないと感じる人も、神に自分の願いをゆだねるのをためらってはいけない。世の罪のために、キリストを与えることによって、ご自分をお与えになった神は、すべての魂の責任をご自分で負われたのである。……

キリストは、ご自分の嗣業である神の選民をサタンの手の中からあがない出すことを、何よりも望んでおられる。しかし、わたしたちが、サタンの外部的な権力から救われるに先だって、サタンの内部的な力から救われなければならない。そこで世俗心や利己心、粗野でキリストにふさわしくない性質を清めるために、主は試練がやってくることをお許しになる。苦難の大水が押しよせてくるのは、わたしたちが、神と、神がつかわされたイエス・キリストを知り、汚れからの清めを熱望するようになるためである。こうした試練を経ることによってさらに清く聖なるものとなり、幸福になるためである。わたしたちが試みの炉にはいるとき、魂はしばしば利己心のために暗くなる。しかし、そのきびしい試練を忍耐するならば、神の性質を反映して出てくるのである。（キリストの実物教訓 155, 156）

8月11日

炎のただなかでの信仰

「〔他の者は〕石で打たれ、さいなまれ、のこぎりで引かれ、つるぎで切り殺され、羊の皮や、やぎの皮を着て歩きまわり、無一物になり、悩まされ、苦しめられ、(この世は彼らの住む所ではなかった)、荒野と山の中と岩の穴と土の穴とを、さまよい続けた。」(ヘブル 11:37, 38)

〔英国におけるウイクリフの死後数年して〕殉教につぐ殉教があった。追放され、拷問を受けた真理の支持者たちは苦しみの叫びを万軍の主の耳に注ぎ込むことしかできなかった。狩り立てられた改革者たちが見出した最上の隠れ場は、下層階級の人々の間であり、密かな場所で説教をしたり、洞穴や洞窟の中にさえ身を潜めた。(預言の霊 4 巻 89,90)

「アンドリュース兄弟は信仰のゆえに殉教にしようとしていた忠実なクリスチャンの実例を述べた。あるクリスチャンの兄弟がクリスチャンの希望の力に関して、すなわち、彼の肉体が火で焼き尽くされている間、その希望が彼を支えるほど力強いかどうか―彼と話し合っていた。彼は、このまもなく殉教しようとしていたクリスチャンに、もしクリスチャンの信仰と希望が、たけりくるった焼き尽くす火よりも強いなら、自分に信号を送ってほしいと頼んだ。彼は自分の番が次に来ることを予期していたので、これが自分を火に対して強固にしてくれるのであった。先の者が合図は与えられるだろうと約束した。彼はこのクリスチャンの燃やされるのを目撃しようと集まったひまな好奇心の強い群集のあざけりと冷やかしのただなかで、火刑柱につけられた。まきの束が持ってこられ、火が点じられた。そのクリスチャンの兄弟は、苦しみながら死んでゆく殉教者に目をじっと目を留め、多くのことが信号にかかっていると感じた。火はますます燃え続けた。その肉体は黒くなった。しかし合図はなかった。彼はその痛ましい光景から一瞬も目をそらさなかった。腕はすでにカリカリになっており、みたところ命はなかった。すべての人が、火はその働きをなしとげ、命はなくなったと思った。そのとき、見よ！炎のただなかで両腕が天に向かって上がった。心が消え入りそうになっていたそのクリスチャンの兄弟は、その喜びの合図の光景をとらえた。それは彼の全存在を貫いて身震いさせ、彼の信仰、彼の希望、彼の勇気を再び新たにし、喜びの涙を流した。(教会への証 1 巻 657, 658)

8月12日

ほとんど消えた宝

「人の子が来るとき、地上に信仰が見られるであろうか。」（ルカ 18:8）

時のしるしを読み、識別できるすべての者は、キリストが近くにおられ、門口にまで来ておられることを知りなさい。神とキリストへの愛を日々育み、兄弟たちへの愛に偽りがないようにしなさい。信仰を絶えず働かせなさい。神が神であられるがゆえに、このお方を信じなさい。あなたの人間的な世を愛する精神を、神の御霊の成型の下におきなさい。「主が来られるとき、地上に信仰を見られるであろうか」との質問がなされる。そのとき信仰はほとんど消えている。（特別な証シリーズ A6 巻 23）

神の民のささげる祈りを、神がお聞きにならないという恐れは全くない。わたしたちは、誘惑や試練に会ったときに、失望落胆におちいり、熱心に祈りつづけなくなってはいけない。（キリストの実物教訓 156）

初期の教会では、キリスト教はその純潔さのうちに教えられ、その教訓は霊感の声によって与えられた。その儀式は人間の創意で腐敗してはいなかった。教会はキリストの精神を表し、その単純さのうちにうるわしかった。その飾りは聖なる原則であり、教会員の模範的な生活であった。多数の者がキリストに勝ち取られたが、見せびらかしや学識ではなく、神のみ言葉の率直な説教に伴うこのお方の力によってであった。……

ギルボアの丘の露と雨のように、聖書の真理を語るのに、その魂が神のみ言葉に欠けている軽薄な者が多くいる。しかし、わたしたちが必要としているのは、まったく改心し、どのように自分の心を神に捧げるべきかを、他の人々に教えることのできる人々である。信心の力はわたしたちの教会の中でほとんど止んでいる。それは何故であろうか。主はまだ恵みをもたらそうと待っておられる。まだ天の窓を閉じてはおられない。わたしたちがこのお方から自分自身を引き離しているのである。わたしたちは十字架にしっかり信仰の目をとめ、イエスがわたしたちの力、わたしたちの救いであることを信じる必要がある。

わたしたちが牧師や民の上にほとんど働きの重荷がおかれていないのを見るとき、次のように問う、主が来られるとき、地上に信仰が見られるであろうか。欠けているのは信仰である。神は豊かな恵みと力をもって、わたしたちの要求を待っておられる。しかし、わたしたちがその大きな必要性を感じないのは、わたしたちが自分自身を見て、イエスを見ないからである。（教会への証 5 巻 166,167）

8月13日

破船の危険

「わたしの子テモテよ。以前あなたに対してなされた数々の預言の言葉に従って、この命令を与える。あなたは、これらの言葉に励まされて、信仰と正しい良心とを保ちながら、りっぱに戦いぬきなさい。ある人々は、正しい良心を捨てたため、信仰の破船に会った。」（テモテ第一 1:18, 19）

どれほど多くの者が、名声を維持するための努力によって失われることであろうか！もし人に成功した伝道者、優れた才能のある説教者、祈りの人、信仰の人、特別に献身した人という評判があるなら、神が来るのをお許しになるささいなテストで、彼が試みられるとき、信仰の破船に陥る危険性がたぶんにある。彼の大いなる努力は、しばしば自分の評判を守るためのものとなる。

他人が自分の価値を正しく評価しないことを恐れて生活する者は、わたしたちを神に栄光を帰す価値のある者とする唯一のお方を見失っている。わたしたちは自分自身を管理する忠実な管理人になろう。自己から目を離し、キリストを見よう。そのとき苦労は全くなくなる。なされた働きはどれほどすばらしく見えようとも、イエスの愛によってなされないのであれば価値はない。ある人は宗教活動を一通りすべて行うかもしれないが、なおその人が語り、行うすべてのことにキリストが織り込まれていないかぎり、自分自身の栄光のために働いているのである。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]7 巻 958）

魂一人びとりにテストがおよぶとき、背教があるであろう。ある者は裏切り者、向こう見ずな者、高慢な者、うぬぼれの強い者であることを示し、信仰の破船をして真理から離れる。なぜであろうか。なぜなら彼らは「神の口から出る一つ一つの言で」生きなかったからである（マタイ 4:4）。彼らは深く掘って自分たちの土台を確かなものにしなかった。主がお選びになった使者を通じてのこのお方のみ言葉が彼らにもたらされるとき、彼らはその道はあまりに狭いとつぶやき、考える。（教会への証 6 巻 132, 133）

神は、率直に信じる人の思いのためには、十分な証拠をお与えになる。しかし自分の有限な理解力にはわかりにくい二、三のことがあるがゆえに、その証拠の重みに背を向ける者は、不信とけげんな疑いの冷たくいてつくような雰囲気の中に取り残され、信仰の破船をきたす。……イエスは一度として不信仰をお褒めになったことも、疑いを賞賛なさったこともない。（教会への証 4 巻 232, 233）

8月14日

よき戦いを戦う

「金銭を愛することは、すべての悪の根である。ある人々は欲ばって金銭を求めたため、信仰から迷い出て、多くの苦痛をもって自分自身を刺しとおした。しかし、神の人よ。あなたはこれらの事を避けなさい。そして、義と信心と信仰と愛と忍耐と柔和とを追い求めなさい。信仰の戦いをりっぱに戦いぬいて、」（テモテ第一6:10 ～ 12）

ああ、どれほど多くの者が、自分には善と義があるとうぬぼれている一方で、神の真の光は彼らの生涯においてただ自分自身を喜ばせるために生きてきたことを明らかにしていることであろうか。（教会への証 3 巻 475）

見せびらかしと金銭を愛することによって犯している罪悪は、この世を泥棒と強盗の巣にしており、み使いたちを嘆き悲しませる原因となっている。しかしクリスチャンは地上の住民ではないことを公言している。彼らはあたかも一晩だけとまっているかのように、異国にいるのである。わたしたちの家郷は、イエスがわたしたちのために用意しに行かれた住まいの中にある。この世は、過ぎゆくかすみにすぎない。

ある人々は、財産の獲得に熱狂的になる。黄金の法則が犯されるときはいつも、キリストの聖徒というかたちで、キリストが傷つけられるのである。聖徒であろうと罪人であろうと、人類同胞を利用したことは何であっても、天の元帳に詐欺として記される。神は、わたしたちの生活が、他の人々に善を行ない、人を高尚にすることにおいて聖なる役割を果たすことによって、わたしたちの偉大な模範であられるお方の生涯をあらわすようにと計画しておられる。この働きの周囲には真の威厳と栄光がとどまる。これらはこの世では決して明らかにされず、気づかれることもないかもしれないが、来世においては完全に正しく評価される。親切な行為や寛大な行動の記録は永遠に及ぶ。（同上 4 巻 490）

あなたは信仰のよき戦いを闘わなければならない。命の冠のために格闘する者でなければならない。奮闘しなさい。なぜならサタンの掌握があなたがたの上におよんでいるからである。そしてもしあなたがたが彼から自らの身を振りほどかなければ、あなたは麻痺し、滅びるからである。敵は右にも左にも、あなたの前にも後ろにもいるので、あなたは彼を足の下に踏みつけなければならない。奮闘しなさい。なぜなら、あなたには勝ち取るべき冠があるからである。奮闘しなさい。なぜならあなたが冠を勝ち取らないなら、この世でも来世でもすべてを失うからである。奮闘しなさい。しかし、その奮闘はよみがえられたあなたの救い主の力によるものとしなさい。（クリスチャン教育 114）

8月15日

輝きでる信仰

「わたしは福音を恥としない。それは、ユダヤ人をはじめ、ギリシヤ人にも、すべて信じる者に、救を得させる神の力である。神の義は、その福音の中に啓示され、信仰に始まり信仰に至らせる。これは、「信仰による義人は生きる」と書いてあるとおりである。」（ローマ 1:16, 17）

公言する信仰は、実践する信仰でなければならない。真理の光を受けた者は自分たちが他の人々に分け与えなければならない知識を所有しているのである。神の御言を教えたいと思う者は、自ら神の宝を受けなければならない。きまった説教をくりかえし、原稿に頼っていることに満足してはならない。彼らは真理を提示する方法において、たえず向上することによって、自分の宝に加えていくべきである。宗教上の知識において小人になるのではなく、かえってキリストの最初のノックに心を開くべきである。（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ｻﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1899 年 3 月 8 日）

キリストの福音は信じる人々のうちで個性となり、彼らを、すべての人に見られ、読まれる生きた手紙とする。この方法で信心のパン種は群衆の中へと伝えられていく。天の知的存在者たちは品性における偉大さの真の要素を識別することができる。なぜなら神にあっては、ただ善だけが能力として尊重されるからである。

「わたしから離れては、あなたがたは何一つできない」と、キリストは仰せになる（ヨハネ 15:5）。わたしたちの信仰、わたしたちの模範は、過去においてしてきたよりも、もっと神聖に固守しなければならない。神の御言をかつてなかったほどに研究しなければならない。なぜなら、人々が平安の道を学び、神の命で測るその命を得ることができるために、わたしたちが人々に提示しなければならないのは、尊い捧げものだからである。人々の間で非常に高められている人間の知恵は、主に贖われた者が歩むようにしかれた道を指し示すその知恵の前では沈んで取るに足らないものとなる。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1891 年 12 月 15 日）

わたしたちはキリストの福音の使者に、その働きにおいて決して失望することがないように、もっともかたくなな者も神の恵みの及ばないところにいると考えることが決してないようにと懇願する。そのような人が真理を愛してそれを受け入れ、地の塩となるかもしれないのである。川の流れが変わるように人の心を変えるお方は、もっとも利己的で罪に固まっている魂がキリストに降伏するように導くことがおできになる。（教会への証 4 巻 537）

信仰と結びつけて聞く

「〔イスラエル人〕と同じく、わたしたちにも福音が伝えられているのである。しかし、その聞いた御言は、彼らには無益であった。それが、聞いた者たちに、信仰によって結びつけられなかったからである」（ヘブル 4:2）

〔ヘブル 4:2 引用〕。これは、この問題の秘密、すなわち説き勧められる多くの説教によって、なぜあまりにもわずかなことしか成し遂げられないかという理由をわたしたちの前に明らかにする。み言葉は聖霊によってつづられても、その結果は聞き手次第である。主のみ言葉の中でしばしば繰り返されるこのお方のご命令は、「耳のある者は彼に聞くがよい」である（黙示録 2:7）。

語られたみ言葉が良い正直な心の中に受け入れられるかどうかによって、まったく変わって来る。イスラエル人には雲の柱からイエス・キリストによって彼らに語られたみ言葉があった。しかし、この終わりの時代に真理と義の喜ばしい知らせを聞く多くの者と同じように、彼らは献身した耳で聞くことをせず、信じなかった。利己心と自尊心、つぶやきと不信が彼らの周りを衣のように取り囲んだ。彼らは信仰によって聞かず、語られたそのみ言葉を実践しないことにより、自分たちの罪をさらに重くした。

ノアの時代に人々に欠けていたのは信仰であった。……ノアの訴えに彼らが聞き従っていたらどれほど異なった結果になっていたことであろうか。……

わたしたちは、命の冠のために奮闘している多くの者の極貧を知り、理解する。わたしたちは兄弟が直面しなければならないサタンの悪賢い働きに関して無知ではない。兄弟がたよ、あなたがたはサタンが滅びる者のうちにあらゆる不義の欺瞞性をもって働いていることを覚えていなければならない。彼は人に働きかけて、命の冠のために奮闘する者にとってそれを困難にし、つらいものにする。彼は自分の意志を行い自分の計画を続けつつ、大いなる力をもって降りてきたが、それは魂を自分の支配下に置き続けることができるためである。

わたしは教会に書き送る。信じないものにならないで、信仰を持ちなさい。神からあなたに送られたメッセージを受け入れなさい。このお方はあなたに光を送られたが、それはこのお方があなたを悩ませ、あなたに苦痛をもたらすためではなく、あなたを愛し、あなたの魂を捕らえようとする敵のわなからあなたが逃れるようにと望んでおられるからである。清めの良い働きに前進させなさい。主があなたに与えておられる標準に応じなさい。（ポールソン・コレクション 44, 45）。

8月17日

優先事項を整理する

「きょうは生えていて、あすは炉に投げ入れられる野の草でさえ、神はこのように装って下さるのなら、あなたがたに、それ以上よくしてくださらないはずがあろうか。ああ、信仰の薄い者たちよ。」（マタイ 6:30）

ああ、主人であるお方のために、わたしたちは何をしているのであろうか。恩恵期間が終わるとき、どれほど多くの者が、自分たちのために死なれた愛する主に奉仕をお捧げせずに怠ってきた機会を知ることであろう。そしてもっとも忠実であると数えられた者ですら、自分たちの思いが世的な環境でそらされさえしなければ、なし得たはずのことをもっと多く見るのである。（教会への証 4 巻 537）

今こそ、男女に収穫の畑に出かけるようにとの召しが男女になされるとき、その召しに次のように答えることのできる人がいるように、教会員が伝道の働きに携わるために教育を受け始めるべき時ではないだろうか。「わたしたちは無条件に自分をキリストに捧げています。わたしたちは自分も家族も衣服や生活の単純さの習慣を教育してきました。わたしたちは克己に慣れており、自分たちが主に属していることを自覚しています。わたしたちにはこのお方のみ旨を行い、自分を喜ばせる生活をせず、主人であるお方に魂を勝ち取ることより他の願いはありません。わたしたちは遠い地に移り、キリストの原則を掲げ、単純さとへりくだりのうちに真理を生きる準備ができています」。

イエスは天にあるご自分の家庭をはなれ、この暗い世界に人間の悲哀のきわみにまで到達するためにこの暗い世界へ来てくださったが、それはまさに滅びようとしている人々を救うことがおできになるためであった。これが、このお方が堕落した人間に示してくださった愛である。しかし弟子はその主人であるお方より上であろうか。しもべは彼の主より偉大であろうか。もしわたしがほんとうに神との共労者であるなら、わたしはこのお方のみ事業のために幾分かの犠牲を払うようにとの召しを受けないであろうか。だれでもキリストに従う者にとって、自分にまかされているわずかの所有物をたずさえて、地の暗い場所へ出かけ、人々が真理をほとんど聞いたことのないその場所で、柔和と心のへりくだりのうちに、主が人の子らのために何をなしてくださったかを人々に知らせることが、大きすぎる犠牲であろうか。

教会に共に来ている人々は、世界に彼らの光を輝かせるために彼らが今行っている百倍ものことをすることができる。（ホーム・ミッショナリー 1892 年 10 月 1 日）

8月18日

許すことによって働かせる信仰

「神を信じなさい。よく聞いておくがよい。だれでもこの山に、動き出して、海の中にはいれと言い、その言ったことは必ず成ると、心に疑わないで信じるなら、そのとおりに成るであろう。そこで、あなたがたに言うが、なんでも祈り求めることは、すでにかなえられたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになるであろう。また立って祈るとき、だれかに対して、何か恨み事があるならば、ゆるしてやりなさい。そうすれば、天にいますあなたがたの父も、あなたがたのあやまちを、ゆるしてくださるであろう。」（マルコ 11:22 ～ 25）

わたしは、神の民が祈りを怠り、特に、密室の祈りを全くといっていいほどおろそかにしているのを、度々見た。また、多くの人々は、彼らの特権であり義務である信仰を働かせることをせず、信仰だけがもたらし得る感情を待っていることがよくある。感情は信仰ではない。この二つのものは全く別のものである。信仰は、われわれが働かせるものであるが、喜ばしい感情と祝福は、神がお与えになるものである。神の恵みは、生きた信仰という通路を経て、魂に達する。そして、われわれは、その信仰を働かせることができるのである。

真の信仰は、約束された祝福が、実現しそれを感じることができる前に、それをつかんで自分のものとする。われわれは信仰をもって、第二の幕の中に、われわれの願いをささげ、信仰によって、約束された祝福をつかみ、それを自分たちのものとして主張しなければならない。それから、われわれは、祝福を受けることを信じなければならない。なぜならば、信仰が祝福をつかんでいるのであって、み言葉にあるとおりに、それはわれわれのものだからである。「なんでも祈り求めることは、すでにかなえられたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになるであろう」(マルコ 11:24)。ここに、われわれが祝福を受けたと感じる前に、受けることを信じる信仰、すなわち、素のままの信仰がある。約束された祝福が実現して、それが自分のものとなったときに、信仰はそれにつつまれてしまう。しかし、多くの人々は、聖霊を豊かに受けている時に、大きな信仰を持っていて、聖霊の力を感じるのでなければ信仰を持つことができないと考えている。このような人々は、信仰と信仰によって与えられる祝福とを混同している。われわれが聖霊に欠けていることを感じる時こそ、信仰を働かせるべき時である。厚い黒雲が心を閉ざすように思われるそのときに、生きた信仰によって、暗黒をつらぬき、雲を散らさなければならない。真の信仰は、神のみ言葉の中に含まれた約束に基づいていて、そのみ言葉に従う者だけが、その輝かしい約束を自分のものにすることができる。（初代文集 150 ～ 152）

8月19日

信仰を増し加える

「使徒たちは主に『わたしたちの信仰を増してください』と言った。」（ルカ 17:5）

主がわたしたちの信仰を増し加え、わたしたちすべての者がこのお方の癒しの伝道と恵みのみ座を知るようにと主が望んでおられることを、わたしたちが悟るのを助けてくださるように！このお方はご自分の恵みの光が多くの場所から輝き出ることを望んでおられる。状況の必要をご存じのお方は、さまざまな場所にいる働き人たちに利点をもたらすよう取り計らって下さる。こうして彼らはより効果的に、身体的また霊的病の両方から解放する真理に、人々の注意を喚起することができるようになる。

わたしたちの救い主の優しい思いやりが、堕落し、苦しんでいる人間のために呼び起こされた。もしあなたがこのお方に従う者となりたいのであれば、あなたは思いやりと同情を培わなければならない。人間の悲哀への無関心は、他の人々の苦しみへの生きた関心に場所を譲らなければならない。やもめ、孤児、瀕死の病人は常に助けが必要である。ここに福音―すべての人々の希望であり慰めであるイエスを掲げるための福音を宣布する機会がある。苦しんでいる身体が楽になると心が開かれ、あなたは天来の香油を注ぐことができる。もしあなたがイエスを見続け、このお方から知識と力と恵みとを引き出し続けるなら、このお方の慰めを他の人々に与えることができる。なぜなら慰め主があなたと共におられるからである。

あなたは多くの偏見や、多大な偽りの熱心さ、また誤って敬虔と呼ばれているものに直面するようになる。しかし自国でも外国でも、あなたは自分の想像をはるかに超えて、神が真理の種のために準備をしておられる魂を見出す。そして彼らは神のメッセージが自分たちに示されると、喜びをもってそれらを迎える。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1914 年 12 月 17 日）

試練が来るとき失望してはならない。不平とつぶやきは、魂を弱め、神を辱める。あまりにも簡単に不平を言うとは、わたしたちにふさわしいことであろうか。神の愛のしるしはわたしたちの心を感謝と賛美で満たすのに十分ではないだろうか。イエスは、わたしたちが自分ではどうすることもできない遅延を忍耐強く耐えながら、ご自分に信頼するよう望んでおられる。このお方は、ご自分を信頼するようその子らを導くために語られたすべての言葉を覚えておられる。このお方はご自分の契約をたえず心に留めてお忘れにならない。そのみ言葉は決して失望に終わらない。主がわたしたちの仲保者を信じる信仰を増し加えてくださるように！（サザン・ワーク 1902 年 3 月 13 日）

8月20日

このお方はわたし―失われた羊―を救い出しておられる

「信仰は聞くことによるのであり、聞くことはキリストの言葉から来るのである。」（ローマ 10:17）

「わたしはイエスが助けに来てくださった失われた羊です」と言いながら、あなたが信仰によって神のみ約束をつかむ瞬間、新しい命があなたをとらえ、あなたは誘惑者に抵抗する力を受ける。しかし、み約束をつかむ信仰は感情によってくるのではない。「信仰は聞くことによるのであり、聞くことはキリストの言葉から来るのである」（ローマ 10:17）。あなたは何か大きな変化がおこるのを待ちうけてはならない。何かすばらしい感情を感じるのを期待してはならない。神の御霊だけが永続する印象を思いに与えることができる。

キリストは、ご自分の民が魂の敵に抵抗するのを見たいと切望しておられる。しかし自己から目を離し、イエスへ向けることによってのみ、わたしたちはこれを行うことができる。あなたの無力な状態を嘆き悲しむのを止めなさい。なぜなら、あなたの救い主はあなたの弱さを思いやってくださり、今日あなたにこう仰せになるからである、「失望してはならない。あなたの重荷をわたしにゆだねなさい。わたしはすべてを受け取り、あなたの魂にとって良いことを計ろう」。信仰の創始者であり完成者であるイエスを見上げることによって、わたしたちは希望を吹き込まれ、神の救いをみる。なぜならこのお方はわたしたちを堕落から守ることがおできになるからである。わたしたちが嘆くよう誘惑されるとき、唇を強いて神を讃美しよう。なぜならこのお方は讃美する価値があるからである。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1896 年 9 月 15 日）

主をみ言葉どおりに信じよう。あなたはみ約束を研究し、それらを必要のあるときに自分のものとしなさい。〔ローマ 10:17 引用〕。み言葉に根ざし、また根づきなさい。そのとき、あなたは、自分の生活と品性に聖化させる感化力を及ぼすべき、今の時代のための重要な真理を放棄することはない。

魂を神の実在と臨在に親しませるのは、信仰である。そしてわたしたちが神の栄光にのみ目を留めて生きるとき、そのご品性の麗しさをますますはっきりと見るようになる。わたしたちの魂は霊的な力が強くなる。なぜなら、わたしたちは天の大気を呼吸し、わたしたちが動かされないようにと、神がわたしたちの右におられることに気づいているからである。信仰は、神がすべての言葉と行動を見ておられること、またわたしたちが対応すべきお方にはすべてがあらわであることを悟る。わたしたちは無限のお方のみ前にいるようにして生きなければならない。（同上 1888 年 1 月 24 日）

8月21日

希望がある

「見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。」（ルカ 22:31, 32）

カヤパの邸宅の庭で、主を拒否したペテロが、救い主の愛とあわれみと悲しみに満ちたまなざしに、愛と忠誠心を目ざめさせられ、キリストの涙を流して祈られた園に走って行って、キリストの苦悶の血のしたたりにぬれた土に後悔の涙を注いだとき、―「わたしは……あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」との救い主のみ言葉は、ペテロの魂をささえた。キリストは、ペテロの罪を、前もってご存じであったが、彼を絶望のうちに、うち捨てておかれなかったのである。

ペテロにそそがれたイエスのまなざしに、あわれみではなくてけん責があったとしたら、そしてまたイエスがペテロの罪を前もって告げられたとき、希望の言葉を告げておかれなかったなら、ペテロはどんなに暗い気持ちに襲われたことであろう。後悔に苦しめられる魂の絶望は、どんなに致命的であったろう。苦悩と自己嫌悪に陥り、ユダと同じ道に踏みこみそうになったペテロの足をひきとめることができたのは何であったろうか。

キリストは、ペテロを苦悶に会わせないようにはできなかったが、しかし、ペテロをひとり苦しみの中に捨てては置かれなかった。キリストの愛は、人を失望させることも見捨てることもない愛である。人は自ら罪の身であるにもかかわらず、他人の試練や過失に対しては、不親切な態度をとりがちである。

われわれは、人の心を読むことも、他人の心の戦いや苦しみを知ることもできない。愛のけん責、傷つけてもいやす打撃、希望を語る警告というものを、われわれは学ばなければならない。（教育 92,93）

ペテロと同様にわれわれに対しても、「サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った」という言葉が語られている（ルカ 22:31,32）。キリストは、ご自分が身代わりになって亡くなられたその人々をお捨てになることはない。われわれは彼を去り、誘惑に打ち負かされることであろう。しかしキリストは、ご自分の生命という贖いの代価を払われた人から、離れ去ることはおできにならない。もしわれわれの霊的視界が開かれるならば、穀物の束をのせた車のように圧さえられ、悲しみに打ちひしがれてうなだれ、失望して今にも死んでしまいそうになっている魂を見ることであろう。またわれわれは、天使が急いで飛んでいって、こうした試みに遭っている人々を助け……ているのを見るであろう。（国と指導者上巻 144）

8月22日

死んでいるのではなく、生きている

「ああ、愚かな人よ。行いを伴わない信仰のむなしいことを知りたいのか。わたしたちの父祖アブラハムは、その子イサクを祭壇にささげた時、行いによって義とされたのではなか　ったか。あなたが知っているとおり、彼においては、信仰が行いと共に働き、その行いによって信仰が全うされ、」（ヤコブ 2:20 ～ 22）

あわれみを受ける条件に従わずに神の恵みを受けることができると主張することは、信仰ではなくて、臆断である。なぜなら、真の信仰は、聖書の約束と規定とに基づくものだからである。

神の要求を一つでも故意に犯していながら、清くなれると信じて、自分を欺いてはならない。罪と知りながらそれを犯すことは、聖霊のあかしの声を沈黙させ、魂を神から引き離すものである。……

天においても地においても、清めに関する神の唯一の標準によって量るのでなければ、だれひとり、清い人であるとはいえない。もし人々が、道徳律を重んじず、神の教えを軽んじ無視し、これらの最も小さい戒めの一つを破り、またそうするように人に教えるならば、そのような人々は、神の目からは評価されない。そしてわれわれは、彼らの主張することにはなんの根拠もないことを知ることができるのである。（各時代の大争闘下巻 201,202）

わたしたちの信仰は、良い働きに富んでいなければならない。なぜなら、働きのない信仰は死んだものだからである。果たされた一つ一つの義務、イエスのみ名によって払われた一つ一つの犠牲は、はなはだ大きな報いをもたらす。義務の行為そのものにおいて、神は語り、祝福をお与えになる。しかし、このお方はわたしたちに機能をすべて明け渡すことを要求なさる。思いと心、全存在が、このお方に捧げられなければならない。そうでなければ、わたしたちは不足して真のクリスチャンになることができない。（教会への証 4 巻 145）

キリストを信じる生きた信仰は、人生のあらゆる行動、魂のあらゆる感情を神の真理と義に調和させる。

いらだち、自己高揚、自尊心、激情、またその他わたしたちの聖なる模範であるお方に似ていない品性のすべての特徴に打ち勝たなければならない。そうすればへりくだり、柔和、またイエスの大いなる救いに対するこのお方への心からの感謝の気持ちは、心の純潔な泉から絶え間なく流れ出る。（同上 527, 528）

8月23日

信じることと行うことが混じり合う

「霊魂のないからだが死んだものであると同様に、行いのない信仰も死んだものなのである。」（ヤコブ 2:26）

わたしたちは信仰によって義認されるのであるが、わたしたちのわざの性質によってさばかれるのである。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1896 年 4 月 21 日）

生きた信仰とは、働く信仰である。わたしたちが庭園に入って行き、そこで植物には生気がなく、葉には新鮮さがなく、つぼみがほころびることも、花が咲くこともなく、命の兆しが幹にも枝にもなかったとしたら、次のように言わないであろうか、「植物は死んでいる。それらを庭園から引き抜きなさい。花壇にあるとみっともないから」。キリスト教を公言しながら、霊性のない人々もまったく同様である。もし宗教的な活力のしるしがなく、主の戒めを行なっていないなら、生けるぶどうの木であられるキリストのうちに宿っていないことは明らかである。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1894 年 9 月 13 日）

信仰と行ないは対をなし、信じることと行なうことは混じり合う。……だれ一人として、信仰が何であろうと、生涯がどんなに不完全であろうと、神はまこごろを受け入れて下さるという、生来の心には非常に心地よい惑わしを取り上げることのないようにしよう。

律法の要求に応じるためには、わたしたちの信仰がキリストの義をつかみ、自分の義として受け入れなければならない。キリストと結合することによって、このお方の義を信仰によって受け入れることを通して、わたしたちは神の働きをなし、キリストと働く共労者となる資格を得る。もしあなたが悪の潮流にあわせて漂うことを望み、永遠の義をもたらすために自分の家族や教会の中で不義を抑制することにおいて天の代理人たちと協力しないならば、あなたに信仰はない。信仰は愛によって働き、魂を清める。信仰を通して聖霊は心のうちに働きかけ、その中に聖潔を創造する。しかし、これは人間の代理人がキリストと共に働くのでなければ、なしとげられない。わたしたちは聖霊が心に働いて下さることを通してのみ、天にふさわしいものとされる。なぜなら、もしわたしたちが御父の許へ行きたいならば、キリストの義を自分たちの信任状として持たなければならないからである。わたしたちがキリストの義を持つことができるためには、日ごとに聖霊の感化によって変えられ、神聖にあずかる者となる必要がある。（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1 巻 373, 374）

8月24日

信仰によって神の許へ行く

「このように、わたしたちは、信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得ている。わたしたちは、さらに彼により、いま立っているこの恵みに信仰によって導き入れられ、そして、神の栄光にあずかる希望をもって喜んでいる。」（ローマ 5:1, 2）

御使たちはイエスに仕えていたが、彼らの存在がこのお方の生涯を安逸で、厳しい争闘や激しい誘惑のないものとはしなかった。このお方はあらゆる点において、わたしたちのように誘惑され、なおかつ罪のないお方であった。……

もしわたしたちが、何一つ不足することがないようにわたしたちのために十分に用意して下さった備えを自分のものとすることができないとしたら、弁解の余地はない。困難にしりごみし、苦しい試練の下でつぶやくことは、神のしもべを弱くし、責任と重荷を負うのに無能なものとする。

戦いの前線でひるむことなく立つすべての人は、自分たちに対してサタンの特別な戦闘を感じるに違いない。彼らはサタンの攻撃に知って、砦であるお方の許へ逃げる。彼らは神からの特別な強さの必要を感じ、このお方の強さのうちに労する。であるから、彼らの獲得した勝利が彼らを高めることはない。かえって、彼らを導いて信仰のうちにますますしっかりと力あるお方により頼ませるのである。神への深く熱い感謝が、彼らの心のうちに呼び覚まされ、彼らは敵によって圧迫されるときに経験する苦難のうちにあっても喜んでいる。これらの自発的なしもべたちは、経験を得ながら、神のみ事業の誉れとなる品性を形成しているのである。

現在は、神のしもべにとって厳粛な特権と聖なる信任の時である。もしこれらの信任を忠実に守るならば、主人が、「あなたの会計報告を出しなさい」と仰せになるとき（ルカ 16:2）、忠実なしもべの報いは大きい。熱心の骨折り、無私の働き、忍耐強く辛抱強い努力は、豊かに報いられる。イエスは、次のように仰せになる、わたしはもはやあなたをしもべとは呼ばず、友、また客と呼ぶ。主人の承認は、なされた働きの偉大さのゆえでもなければ、多くのものを得たからでもない。そうではなく、わずかなものにおいてさえ、忠実であったからである。神が重きをおかれるのは、わたしたちが達成した偉大な結果ではなく、わたしたちが実行した動機である。このお方は成し遂げられた働きの偉大さよりも、善と忠実さを高く評価なさる。（教会への証 2 巻 509 ～ 511）

8月25日

影を貫いて押し進む

「すべて信仰によらないことは、罪である。」（ローマ 14:23）

わたしたちのうちある者は、あまりにも自分は祝福を受けてこなかった、何の喜びも感じないと文句を言って、牧師のところにやってきた人に似てはいないだろうか。神は、わたしが祝福を求めて何度も何度も祈ってきたのに、自分の祈りを聞いて下さらなかった、と。「では」と牧師は言った、「ここでたった今、共にひざまずき、主に現状を申し上げましょう」。二人が共に祈った後、牧師は彼に前より良くなったかどうかを尋ねた。その人は答えた、「祈る前とちっとも変らず良くありません。わたしは祝福を受けるとも期待していませんでしたし、祝福されませんでした」。彼の祈りは見せかけだけだったのである。彼は主が自分にこたえて下さると信じていなかった。だから、彼の信仰が主張したものだけを受けたのである。そのような祈りに答えられないということに不思議があろうか。「すべて信仰によらないことは、罪である」（ローマ 14:23）。あなたは自分が信仰のない嘆願を捧げるときに、このことを考えているであろうか。あなたは立ち止まって、自分がどれほど神を辱め、自分自身の魂を貧しくしているかを考えるであろうか。もしあなたが自分のしている悪に気づくことさえできれば、あなたは意味のない祈りによって、あざけることをやめるであろう。

信仰とへりくだりのうちに神の許へ来なさい。このお方に、もし必要であれば、夜が明けるまで、嘆願しなさい。あなたが自分の重荷をこのお方の足元において、「わたしは自分の信じてきたかたを知って」いると（テモテ第二 1:12）言うことができるくらい、このお方と緊密な関係に入るときまで、嘆願しなさい。（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ｻﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1888 年 2 月 24 日）

神をそのみ言葉通りに信じ、信仰によって働きなさい。サタンはあなたが自分の天父の言葉に信頼させないようにほのめかしをもって、あなたのところへやってくるであろう。しかし、「すべて信仰によらないことは、罪である」（ローマ 14:23）ことを考えなさい。あなたの信仰を、サタンの暗い影を貫いて押し進ませなさい。そして、それを憐れみのみ座の上にゆだね、何一つ疑いを抱いていてはならない。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1894 年 8 月 9 日）

あなたがあますことなく神に自らを明け渡すとき、あなたがイエスの上に落ちてすっかり砕けるとき、あなたは勝利によって、かつて経験したことのなかったような喜びで報いられる。あなたが過去をはっきりとした視力で顧みるとき、人生がただ困惑と重荷にしか思えなかったまさにその時に、イエスご自身があなたの近くおられ、あなたを光へ導こうとしておられたことを知るようになる。あなたの御父があなたの傍らにいて、言い表せない愛をもってあなたの上にかがみ、ちょうど精錬する者が貴重な鉱石を精錬するように、あなたの益のためにあなたを悩ませておられたことを知るようになるのである。（教会への証 4 巻 220, 221）

8月26日

あなたの信仰の試み

「そのことを思って、今しばらくのあいだは、さまざまな試錬で悩まねばならないかも知れないが、あなたがたは大いに喜んでいる。こうして、あなたがたの信仰はためされて、火で精錬されても朽ちる外はない金よりもはるかに尊いことが明らかにされ、イエス・キリストの現れるとき、さんびと栄光とほまれとに変るであろう。あなたがたは、イエス・キリストを見たことはないが、彼を愛している。現在、見てはいけないけれども、信じて、言葉につくせない、輝きにみちた喜びにあふれている。」(ペテロ第一 1:6 ～ 9)

〔ペテロ第一 1:6 ～ 9 引用〕。使徒の言葉は、あらゆる時代の信者たちを教えるために書かれた。そしてこれは、「万物の終りが近づいている」時に生存している者にとって、特別な意味を持っている。彼の励ましと警告、信仰と勇気の言葉は、「最後までしっかりと」信仰を持ち続けようとする、すべての者に必要である (ヘブル 3:14)。(患難から栄光へ下巻 217)

信仰の試みは金よりも尊い。すべての者はこれがキリストの学校の訓練の一部であり、これが彼らを地につけるもののかすから清め、精錬するために不可欠であることを学ぶべきである。彼らは不屈の精神をもって敵のあざけりや攻撃を耐え、サタンが道をふさごうとして彼らの行く手におくすべての障害物を乗り越えなければならない。サタンは彼らに祈りを怠らせ、聖書研究のやる気をそがせようとし、それから、彼は自分の憎むべき影で彼らの行く手をはばんで、彼らの視野からキリストと天の魅力を隠そうとする。(教会への証 5 巻 578)

サタンはあなたを再び誘惑しているであろうか。神はあなたがかつて失敗したのと同じ場所に導かれるのを許しておられるであろうか。あなたは今、不信仰が自分の魂をとらえるのを許してしまうのであろうか。あなたはイスラエルの子らがしたように、いつも失敗するのであろうか。神はあなたが悪魔に抵抗し、あなたの信仰のすべての試練からより強くなって出てくるように助けて下さる！

どのように動くか気をつけなさい。自分の足のために道をまっすぐにしなさい。不信仰に対して戸を閉じ、神をあなたの強さとしなさい。もし困惑しているなら、じっとしていなさい。闇の中で動いてはならない。わたしはあなたの魂のために深く案じている。これは、神があなたに賜る最後の試練かもしれない。滅びに向かって下り道へと一歩でも踏み出してはならない。待ちなさい。そうすれば神があなたを助けて下さる。耐え忍びなさい。そうすれば、はっきりとした光が現れる。(同上 572)

8月27日

矢を消すたて

「その上に、信仰のたてを手に取りなさい。それをもって、悪しき者の放つ火の矢を消すことができるであろう。」（エペソ 6:16）

〔エペソ 6:16 引用〕。あなたがたの心を、神は悪に対する戦いにおいてあなたがたが直面するあらゆる試練と困難をご存じであるという信仰のうちに確立しなさい。なぜなら、だれか魂が不信仰を語ることによってこの神の力を小さく見せるとき、このお方は辱められるからである。

この世界は、神の偉大な働き場である。このお方はご自分のひとり子の血によって、そこに住む人々を買い取られた。そしてこのお方はご自分のあわれみのメッセージがすべての人のところに届かせるおつもりである。この働きをするようにゆだねられている人々は、テストされ、試みられる。しかし、彼らはいつも神が自分たちを強め、支えるために近くにいて下さることを覚えているべきである。このお方はわたしたちがだれでも折れた芦により頼むようにとは仰せにならない。わたしたちは人間の助けを探し求めてはならない。神はわたしたちが神のおられるべき所に人間を置くことを禁じられる。このお方はわたしたちを助けると約束なさった。そして主なるエホバのうちに、「とこしえの岩（強さ）」がある（イザヤ 26:4）。（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ｻﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1896 年 9 月 17 日）

イスラエルの中に信仰と力がなぜもっとないのだろうかと、わたしは天使にたずねた。

「あなたがたは、主の手をあまりに早く放し過ぎる。あなたの願いをみ座に訴え、強い信仰を持って訴えつづけなさい。約束は確実である。あなたがたが願い求めることは、受けると信じなさい。そうすれば、そのとおりになる」と天使が言った。それからわたしは、エリ書のことを示された。エリヤは、わたしたちと同じ人間であったが、熱心に祈った。彼の信仰は試練に耐えた。彼は、主のみ前で七回祈った。そして、ついに、雲が現れた。われわれは確実な約束を疑い、われわれの不信仰のために、救い主のみこころを傷つけていたことを、わたしは悟った。「武具を身につけなさい。その上に、信仰のたてを手に取りなさい。それが、悪しき者の放つ火の矢から、心臓、すなわち生命そのものを守るのである」と天使が言った。もし、敵が、失望した者の目をイエスからそらして自分たちをながめさせ、彼らに、イエスの尊さ、イエスの愛、イエスの功績、イエスの大きなあわれみなどを考えるかわりに、自分たちの無価値なことを考えさせることができるならば、彼は、彼らから信仰のたてを奪い去って、自分の目的を達成することができる。人々は、敵の火のような攻撃にさらされる。であるから、弱い者は、イエスを仰いで、イエスを信じなければならない。その時、彼らは信仰を働かせるのである。（初代文集 152, 153）

8月28日

わたしたちの最も神聖な信仰を築く

「しかし、愛する者たちよ。あなたがたは、最も神聖な信仰の上に自らを築き上げ、聖霊によって祈り、神の愛の中に自らを保ち、永遠のいのちを目あてとして、わたしたちの主イエス・キリストのあわれみを待ち望みなさい。」（ユダ 20, 21）

わたしたちはすべての人が神のみ言葉を信じることのできる立場にいるようにと願う。もし、わたしの子らが、あたかもわたしが彼らにとって良いようにと考えていないかのように、わたしの全生涯の努力は彼らの利益を促進し、彼らに快適さを与えるためであったにもかかわらず、たえずわたしに向かってつぶやくとしたら、わたしはどのように感じることであろう。彼らがわたしの愛を疑ったとしたら、わたしの心は砕かれるであろう。わたしはそれに耐えることができないであろう。あなたがたのうちだれかが、自分の子供からそのような仕打ちを受けたらどのように感じるであろうか。わたしたちの天父は、わたしたちがこのお方の愛を疑ったとしたら、どのようにお思いになることであろう。このお方の愛は、わたしたちが命をもつことができるようにとご自分のひとり子をさえ与えて下さったのである。（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ｻﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1889 年 3 月 18 日）

要求されている信仰は、単に教理に同意することではない。それは愛によって働き、魂を清める信仰である。謙遜、柔和、従順は信仰ではない。そうではなく、それらは信仰の効果であり、実である。（ウォッチマン 1908 年 3 月 24 日）

あなたが神を勤勉に尋ね求めるならば、あなたはこのお方を見出す。しかし、このお方は二心の悔い改めをお受入れにならない。もしあなたが自分の罪を捨てるなら、この方はいつでも許して下さる。あなたは今ただちにこのお方に屈服するであろうか。あなたはカルバリーを眺めて、次のように尋ねるであろうか。「イエスはわたしのためにこの犠牲を払われたのか。このお方はわたしを有罪の苦しみと絶望の恐怖からわたしを救い、ご自分の王国で言葉に尽くせないほど幸せにしたいと願って、屈辱と恥辱と非難に耐え、残酷な十字架の死に苦しまれたのか」。あなたの罪が刺しとおしたこのお方を仰いで、決心しなさい。「主はわたしの生涯の奉仕をお受けになるのだ。わたしはもはやこのお方の敵と結託しない。わたしはこれ以上このお方の統治に対する反逆者に自分の感化力を貸すようなことをしない。わたし持っているものとわたし自身のすべては、わたしのためにご自分の命を―このように罪深く誤った者のために、神なるこのお方自身を―与えるほどのわたしを愛して下さったお方にお捧げするには小さすぎる」。世から分離して、完全に主の側に立ち、門口に向かって戦いを押し進めなさい。そうすれば、あなたは栄光に満ちた勝利を得るのである。（教会への証 5 巻 438, 439）

8月29日

キリストの喜びを見る

「こういうわけで、わたしたちは、このような多くの証人に雲のように囲まれているのであるから、いっさいの重荷と、からみつく罪とをかなぐり捨てて、わたしたちの参加すべき競走を、耐え忍んで走りぬこうではないか。信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、走ろうではないか。」（ヘブル 12:1, 2）

自分の内に慰めを求めて見る者は、疲れて失望するようになる。わたしたちの弱さと無価値さの自覚がわたしたちを、心のへりくだりをもってキリストの贖罪の犠牲を嘆願するよう導くべきである。わたしたちがこのお方の功績により頼むとき、休息と平安と喜びを見出す。このお方はご自分によって神の許へ来るすべての人を最高にまで救って下さる。

わたしたちは毎日毎時間、イエスに信頼する必要がある。このお方は、わたしたちの力は、わたしたちの日と共に続くと約束なさった。このお方の恵みによって、わたしたちは現在のあらゆる重荷を負い、その義務を果たすことができる。しかし、多くの者たちは、将来の問題を予期して、おしつぶされてしまう。彼らは絶えず明日の重荷を今日に持ちこもうとする。このように、彼らのあらゆる試練の大部分は、想像にすぎないのである。イエスはこのようなことのための備えはしてはこられなかった。このお方はこの日のためだけに恵みを約束しておられる。このお方はわたしたちが明日の心配や問題で重荷を抱えることを禁じておられる。……

懸念される災いをくよくよと思い悩む習慣は、賢くなく、クリスチャンでもない。こうすることによって、わたしたちは祝福を楽しむことも現在の好機を生かすこともできなくなる。主はわたしたちに今日の義務を果たし、今日の試練に耐えるように要求なさる。わたしたちは共、言葉や行いにおいて罪を犯すことがないように見張らなければならない。わたしたちは今日、神の讃美し、誉れを帰さなければならない。生きた信仰を働かせることによって、今日わたしたちは敵に勝たなければならない。わたしたちは今日、神を探し求め、このお方のご臨在なしには満足して休むことをしないと決心しなければならない。わたしたちはあたかもこの日がわたしたちに与えられた最後の日であるかのように、見張り、働き、祈るべきである。そのとき、わたしたちの生涯はどれほど熱心で真面目なものとなることであろう。わたしたちは自分の言葉と行為において、どれほど厳密にイエスに従うことであろう。（同上 200）

キリストをそのお苦しみの間ずっと支えてきたみ前におかれた喜びとは、哀れな罪人の救いであった。これがわたしたちの喜びとなり、わたしたちの大望の動機となるべきである。（同上 2 巻 115）

8月30日

責任を負い、また活動的

「怠ることがなく、信仰と忍耐とをもって約束のものを受け継ぐ人々に見習う」（ヘブル 6:12）

わたしたちが自己放縦の安逸な道を選び、自己否定を恐れているかぎり、わたしたちの信仰は決して堅固にならず、イエスの平安も、自覚している勝利を通してもたらされる喜びも知ることができない。神と小羊のみ座の前に立ち、白い衣をまとった、贖われた万軍の中で最も高められた人は、克服する戦いを知っている。なぜなら、彼らは大きな患難をとおってきたからである。この戦いに携わるよりは、状況に屈してきた人たちは、すべての魂に苦悩が及ぶ日、すなわちすべての人が自分自身の義によって自分の魂を救出しなければならないがゆえに、ノア、ヨブ、ダニエルが地にいても、彼らが自分の息子も娘も救うことのできない日に、いかにして立つかを知らない。

だれ一人として自分の場合は望みがない、クリスチャンの生涯を送ることはできないと言う必要はない。キリストの死によって、すべての魂に十分な備えがなされている。イエスは時機を得たわたしたちのいと近き助けであられる。

ただ信仰のうちにこのお方に呼び求めなさい。そうすれば、このお方はあなたの嘆願を聞いて答えると約束された。（教会への証 5 巻 215）

なすべきことはただ信じるだけであるという嬉しがらせるような作り話は、幾千幾万もの人々を滅ぼしてきた。なぜなら、多くの人々が信仰ではなく、教条にすぎないものを信仰と呼んできたからである。人は知的な責任のある存在である。彼は受け身的な重荷のように主によって運ばれるのではなく、キリストと調和して働かなければならない。人は栄光と誉れと不死のために奮闘するにあたり、自分に定められた働きに取りかからなければならない。神はご自分が人に貸し与えられたタラントをすべて用い、ご自分がお与えになったすべての力を働かせるようにと要求しておられる。なぜなら、人は不服従と怠惰のうちには、決して救われ得ないからである。キリストは熱心な祈りのうちに格闘なさった。このお方はご自分が天を後にして、この地上に来られた人々のために、強い叫びと涙とをもって、御父に嘆願をおささげになった。そうであれば、人が祈り、弱り果てずにいることは、しかり、なんとふさわしく、なんと重要不可欠なことであろう！彼らが常に祈り、ただわたしたちの主キリストからのみもたらされる助けを求めて嘆願することは、なんと重要なことであろう！もしあなたが祈るための声と時間を見出すならば、神は答えるための時間と声を見出して下さる。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1890 年 4 月 1 日）

8月31日

価値のある働き

「もし、彼らのうちに不真実（不信仰）の者があったとしたら、その不真実（不信仰）によって、神の真実（信仰）は無になるであろうか。」（ローマ 3:3）

もしわたしたちが、自分たちの前にある悩みの時を耐え抜く知恵と知識を得たいと望むならば、わたしたちは日ごとに信仰を働かせることによって、いまそれを集めていなければならない。わたしたちはあなたがたが悩みの時のことを案じることを望んではいない。そうではなく、あなたのすぐそこにある働きを取り上げ、日々それを忠実に果たしてほしいのである。あなた自身の教会に、また近隣に、助けを必要としている魂がいる。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1889 年 6 月 11 日）

真理を拒む人々の人数に比べると、それを受け入れる人の数は非常に小さい。しかし、一人の魂は、それ以外の諸世界以上に価値があるのである。わたしたちは、自分たちの働きが大きな収穫をもたらさないように見えても、失望してはならない。キリストについて「彼は衰えず、落胆せず」（イザヤ 42:4）と記されている。わたしたちは失敗や失望を語るのであろうか。人類が滅びないで、永遠の命を得るために、わたしたちの主が払われた価について考えようではないか。世の大部分が真理を拒むとしても、ある者は受け入れ、ある者はキリストの引き寄せる力に応じる。読み物を手に渡された人々が光に背を向け、良心の確信に従うことを拒むかもしれないが、彼らのさげすんだ使者は、神のみ摂理を通して他の人の手に渡り、彼らにとって時に応じた定めの食事となるかもしれないのである。彼らは聖書を調べ、何が真理であるかを知るために祈るために目覚めさせられるであろう。そして、彼らがむなしく求めることはないのである。神の御使たちが彼らの必要に奉仕する。真理の調和している多くの人々、その心がこの終わりの時代のための光のゆえに平安と喜びに満たされている人々は、他の人々が拒んだ頁（ページ）からその知識を受けたのである。真理の証拠を受け入れやすい人々は、神の御霊の説得に従うのである。（ﾎｰﾑ・ﾐｼｮﾅﾘｰ 1890 年 2 月 1 日）

あなたの経験が成長するにつれ、あなたはますます魂の情熱が増し、神の奉仕への愛が温かくなる。なぜなら、あなたはイエス・キリストと目的を一つにしているからである。あなたの共感は、聖霊によって生み出されたものである。あなたはキリストと共にくびきを負い、神と共に働く共労者なのである。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1894 年 8 月 9 日）

（70 ページの続き）

もちろん、神は何が起こったのか、いつもご存じでした。何ひとつ、神からかくれているものはありません。このお方は恐ろしい死を目撃しておられました。このお方は地に落ちたアベルの血をごらんになりました。そしてそれは正義を求めて叫んでいました。事実、アベルは、生きてこの大きな過ちに対して何かした場合よりも、沈黙した無力な死のうちにこそ、もっと大きな声で叫んでいたのです。

カインは、神の聖なる律法の第 6 条をやぶりました。「あなたは殺してはならない」。しかし、彼のほこり、彼の嫉妬（しっと）、彼の怒り、彼の利己心（りこしん）、彼のうそによって、彼は他の 9 条もみんなやぶっていたのです。彼は罰せられなければなりません。どのようにでしょうか。

「今あなたはのろわれてこの土地を離れなければなりません。この土地が口をあけて、あなたの手から弟の血を受けたからです。あなたが土地を耕しても、土地は、もはやあなたのために実を結びません。あなたは地上の放浪者（ほうろうしゃ）となるでしょう」。

神さまはあわれみのうちに、カインの命をお取りになりませんでしたが、彼を家庭と彼にとってとても大切だったものから送り出されました。ちょうど、アダムとエバがご自分に対して罪を犯されたときに、彼らをエデンの園から送り出されたように。若者は逃亡者になるのでした。つねに自分の命のために逃げまわり、さまよう者、「放浪者」となって、決してどこにも定着しないのでした。

カインは自分の罪によってどんな代価を払うことになるかを悟って、「わたしの罰は重くて負いきれません」と叫びました。「あなたは、きょう、わたしを地のおもてから追放されました。わたしはあなたを離れて、地上の放浪者とならねばなりません。わたしを見付ける人はだれでもわたしを殺すでしょう」。

ピーマンの南蛮漬け

■材料

ピーマン	8 個
たまねぎ	1/4 個
にんにく (すりおろし)	小さじ 1
しょうが (すりおろし)	小さじ 1
しょう油	大さじ 4
顆粒昆布だし	小さじ 1
レモン汁	大さじ 2
粗糖	大さじ 2
ごま油	適量

■作り方

1. たまねぎはみじん切りにし、にんにく、しょうが、レモン汁、粗糖、しょうゆと混ぜ合わせます。
2. ピーマンは半分に切って、たねやへたはそのまま残します。
3. フライパンにごま油を熱し、ピーマンを転がしながら、こんがり焼き色がつくまで 5 ～ 10 分焼きます。
4. ピーマンが熱いうちに 1 をからめて漬けます。

ピーマンの栄養がたくさん入っている部分をまるごといただきます。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校：9:30-10:45（公開放送）

礼拝説教：11:00-12:00（公開放送）

午後の聖書研究：14:00-15:00

【公開放送】http://www.4angels.jp

聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□福音の宝
□聖所真理

お申込先：sdarm.shomaru@gmail.com

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。

【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。

聖書物語

パート2　第16話

しるしをつけられた人（1）

カインは自分がしたことを恐れました。自分の兄弟の体が地にくずれ落ちるのを見ながら、彼はどうなるのだろうと不安に思いました。なぜなら、今まで人が死ぬところを見たことがなかったからです。それから、彼はアベルが死んだという恐るべき事実―祭壇の上のあの小羊のように死に、そしてそれがあらゆる問題の原因だったということ―が彼にのしかかってきたとき、彼の怒りは恐れから深い後悔へ変わりました。

彼は家に帰ることができませんでした、今は。彼は父親と母親にあわせる顔がありませんでした。この恐ろしいことをしでかした後は。また彼は自分の兄弟姉妹たちにも顔をあわせられませんでした。なぜなら、彼らは非常に怒るでしょうし、おそらくは自分がアベルを殺したように、彼を殺したいと思うかもしれません。彼はできるだけ遠くへ逃げて、二度と戻ってくることはできないのでした。

これが罪のもたらす結果です。罪は愛する人々を別れ別れにします。幸せを台なしにし、思いから平安を、心から喜びを追いやってしまいます。

カインがその場から逃げ出したとき、神が自分を呼ぶ声を聞きました。「弟アベルは、どこにいますか」。

カインはあたかも神をあざむくことができるかのように言いました。「知りません。わたしが弟の番人でしょうか」。

神は言われました、「あなたは何をしたのです。あなたの弟の血の声が土の中からわたしに叫んでいます。」

（67ページに続く）